

平成 19 年 度

ビジネス創造センター 研 究 活 動 報 告 書

平成20年6月

国 立 大 学 法 人

小 樽 商 科 大 学

ビ ジ ネ ス 創 造 セ ン タ ー

発刊によせて

ビジネス創造センター（CBC）
センター長・教授 海老名 誠

国立大学法人小樽商科大学ビジネス創造センターの平成 19 年度・活動報告書を刊行するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

ビジネス創造センター（Center for Business Creation, CBC）は、平成 11 年 4 月に開設され、平成 19 年度末で創立 9 年を経過しました。CBC は、多くの大学では地域共同研究センターと呼ばれる施設です。殆どの地域共同研究センターは、昭和 62 年度以降、理工系国立大学に順次設立されてきました。本学の CBC は、社会科学系の大学として全国で最初に設置されました。

本学は、全国唯一の国立商科系単科大学として、その研究成果を活用した社会貢献・地域貢献活動に努めています。具体的には、CBC を中心とした産学官連携活動を通じて、地域経済の活性化と発展に寄与すべく取り組んでいます。又、CBC とビジネススクールが連携して、実践的且つ想像力に溢れた人材の育成に取り組んでいます。

北海道の経済は、例えば有効求人倍率が全国平均の半分程度であるなど低迷しており、特に本学が所在する小樽市の経済は近時も引き続き非常に厳しい状況にあると言わざるを得ません。

このような環境認識のもと、本学 CBC は地元小樽市をはじめとする北海道の産学官連携事業に積極的に関与して参りました。平成 19 年度末には小樽市との包括連携協定締結を実現しました。更に、本学に蓄積された専門的知見を、共同研究や受託研究、研究会活動等を通じて、地域社会や個別課題の解決に結びつけるべく、努力しています。

「大学間の文理融合による連携協定」を締結している北海道公立大学法人 札幌医科大学および北海道東海大学（現東海大学）、国立大学法人 室蘭工業大学、北海道薬科大学とは、広く社会に貢献すべく、様々な活動を連携して行っています。

本報告書は平成 19 年度の歩みをご紹介しますものです。ご一読いただき、皆様のご理解とご鞭撻、ご指導を賜りますれば幸いです。

平成 20 年 6 月



国立大学法人 小樽商科大学 産学官連携ポリシー

小樽商科大学は、全国唯一の国立商科系の単科大学として、自由な学風を尊び、優れた教育と研究並びにそれらの成果を活用した社会貢献を使命とし、地域社会および国際社会の付託に幅広く応える「知の創造」に努め、人類社会の福祉と発展に寄与します。

産学官連携は、大学の知の成果を社会へ還元する重要な活動であり、本学は高い透明性と公平性をもって積極的に取り組みます。

そのために、小樽商科大学は次のことを表明します。

1. 実学実践の伝統と理念のもと、本学の知的資源をもって社会の各主体と連帯し、知の成果を社会に還元し、豊かで活力溢れるわが国社会の発展と国際社会への貢献を行います。
2. 産学官連携活動を通じて、地域経済の活性化と発展、並びにそれらの担い手となる実践的かつ創造力に溢れた人材育成に取り組みます。
3. 文理融合型の社会連携課題に取り組み、新産業の創出と事業のイノベーションに寄与します。
4. 産学官連携活動を積極的かつ持続的に推進する組織を設け、能力ある適切な人材を配置し、社会に貢献する知の創造に努めます。
5. 産学官連携活動は高い透明性と公平性をもって取組み、十分な説明責任を果たします。

目 次

発刊によせて

国立大学法人小樽商科大学産学官連携ポリシー

I.	ビジネス創造センター概要	1
	1. 平成19年度の活動：概説	1
	2. 主要事業分野	2
	3. 組織	3
II.	セミナー等開催報告	5
	1. 「北洋銀行ものづくりテクノフェア2007」出展	5
	2. 小樽商科大学ユーザビリティ・ラボ開所式	7
	3. 平成19年度小樽商科大学ビジネス創造センター産学官連携研究成果報告会	8
	4. 平成19年度小樽商科大学地域活性化セミナー「”小樽の魅力”を売り込む工夫」	10
III.	受託研究・共同研究・後援会助成金の受入実績一覧	13
IV.	研究活動の成果と成果の公刊	17
	1. ユーザーエクスペリエンス研究部門の活動	17
	2. 登録研究会の活動	19
	3. Discussion Paper Series	29
	4. 研究成果，各種メディアへの寄稿および講演	31
	5. 学外委員等	37
V.	小樽商科大学 学術研究奨励事業 第2回「学生論文賞」	43
VI.	ビジネス創造センター活動日誌	49
VII.	ビジネス創造センター関連新聞・雑誌記事	53

I. ビジネス創造センター概要

I-1. 平成19年度の活動：概説

ビジネス創造センター（CBC）

センター長 海老名 誠

本研究活動報告書では、CBCの平成19年度の活動内容実績をご紹介しますが、その運営活動にあたったスタッフ教員や学外協力スタッフ等の状況は、「I-2. 主要事業分野」および「I-3. 組織」の通りです。

近年、本邦の産学官連携活動は、政府の「科学技術振興政策」方針に則り、バイオ・IT・医療技術・創薬・ものづくりなどの分野に特化しつつあると言っても過言ではありません。大学発ベンチャーも、ほぼその様な自然科学系の研究分野から誕生しています。しかし、自然科学系の研究から発芽するシーズを、社会科学系の知見をもって市場に送り出し、収益を生み出すモデルを創り上げることが大切です。自然科学系大学の研究成果と、本学の様な社会科学系大学の研究成果が融合してこそ、新しいビジネスが生み出されると信じます。

本学の様な社会科学系の大学は、マーケティングや市場調査・フィールド調査などを通じ、地元の中小企業や公的部門に対して貢献する事が重要です。平成19年度は、この様な問題意識に立って、地元小樽や札幌・北海道との産学官連携事業に積極的に取り組みました。平成19年度末には地元小樽市との間で「国立大学法人小樽商科大学と小樽市との連携に関する協定」を調印しました。

又、本学の社会貢献活動の一つに、公的機関などが組成する各種委員会などの委員などをお引き受けし、中立的立場から意見具申をする事があります。37頁以降に本学教員の各種委員会・審議会などへのコミットメントを記載しておりますが、特に本センターに関係する教員は、今後も引き続き積極的に公的活動に関与して参る所存です。

本学が所在する小樽は、年々居住人口の減少が続き、市の財政も大変苦しい状況です。しかし、一方では観光客数は平成19年度に約741万人と引き続き高い水準を維持しました。特にアジアを中心とする外国からの観光客の増加が目立ちます。本学は、小樽が国際観光都市として確固たる地位を確立するように、今後とも様々な活動を通じて支援・貢献して参りたいと思います。

I-2. 主要事業分野

● プロジェクト事業

ビジネスのシーズとニーズを結びつけ、新事業の可能性を切り開きます。国立大学ならではのネットワークをフルに活用し、ビジネス創造に不可欠な学内外の専門家や諸機関を有機的に結び合わせた個別調査研究プロジェクトを立ち上げます。これにより道内、さらには国内外から持ち込まれるさまざまなビジネスシーズをビジネスニーズへと展開させることに貢献します。

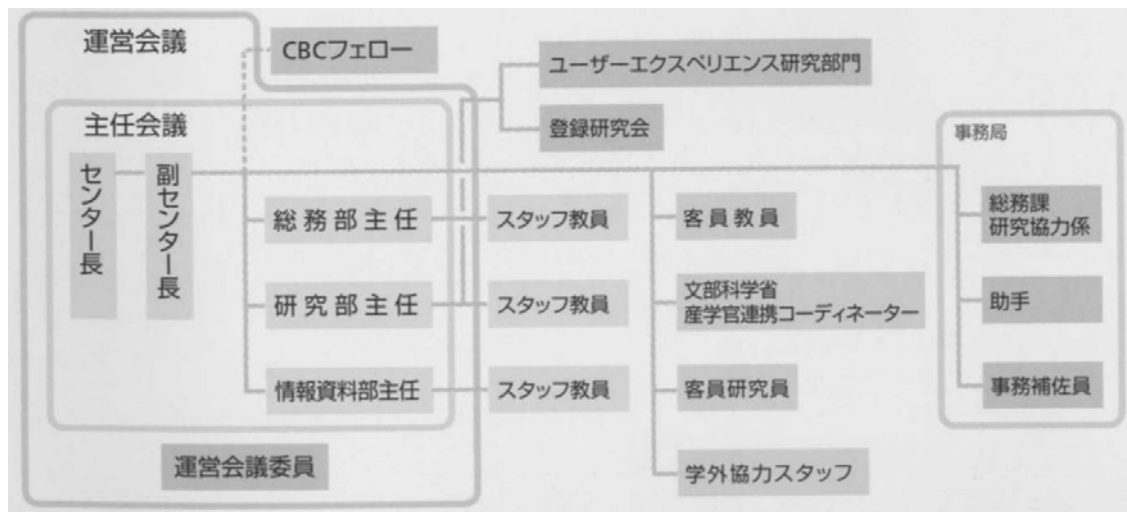
● 情報発信事業

実学実践1世紀のデータベースから、北のビジネスシーンに有益な情報を発信します。建学以来およそ100年にわたり収集してきた北方圏資料に加えて、ビジネス創造に関する各種情報のデータベースを構築し、インターネットや各種セミナー等を通じて積極的に情報公開を図り、地域と大学を緊密に結びつけます。

● 高度職業人育成事業

新時代の多様で高度なビジネスに、必要十分に対応できる人材を育成しています。客員研究員や客員スタッフを、民間企業や自治体などから常勤・非常勤を問わず幅広く受け入れるほか、本学大学院に在籍する多数の現役社会人や留学生に、C B Cの各種活動に参加することでビジネスプロフェッショナルへと向かう実践的環境を提供します。

I-3. 組織(平成20年3月31日現在)



センター長・・・・・・・・・・ 海老名 誠 (ビジネス創造センター・教授)

副センター長・・・・・・・・ 大津 晶 (社会情報学科・准教授)

総務部・・・主任 和田良介 (経済学科・教授)

スタッフ 中村秀雄 (アントレ専攻・教授)

研究部・・・主任 近藤公彦 (アントレ専攻・教授)

スタッフ 前田東岐 (商学科・准教授)

スタッフ 松尾 睦 (アントレ専攻・教授)

スタッフ 齋藤一朗 (アントレ専攻・教授)

情報資料部・主任 田中幹大 (商学科・准教授)

スタッフ 平沢尚毅 (社会情報学科・准教授)

フェロー・・・・・・・・・・ 奥田和重 (副学長／アントレ専攻・教授)

下川哲央 (アントレ専攻・教授)

瀬戸 篤 (アントレ専攻・教授)

運営委員・・・【経済】松家 仁 (准教授) 【商学】高田 聡 (教授)

【企業法】一原亜貴子 (准教授) 【社会情報】阿部孝太郎 (准教授)

【一般教育等】片岡正光 (教授) 【言語】裴 崢 (教授)

【アントレ専攻】ヨン・ステファンソン (准教授) *11月まで／玉井健一 (准教授) *12月より

*「アントレ専攻」は「大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻」の略

ユーザーエクスペリエンス研究部門

部門長 平沢尚毅 (社会情報学科・准教授)

学術研究員 尾形慎哉 桶谷利幸 葛西秀昭 黒田秀樹 山田 (河合) 菊子

事務補佐員 浅村次美

文部科学省産学官連携コーディネーター・・・・一瀬信敏 (客員研究員)

事務局 (総務課)・・・酒井秀人 (研究協力係長), 持田立男 (研究協力係)

助手・・・・・・・・今野茂代

事務補佐員・・・村上弘美

学外協力スタッフ平成 19 年度登録メンバー

(五十音順, 所属・職位は平成 19 年 3 月 31 日現在)

・大石一良氏	あずさ監査法人 札幌事務所 代表社員／公認会計士
・小寺正史氏	弁護士法人小寺・松田法律事務所 所長／弁護士, 弁理士
・佐藤 等氏	佐藤等公認会計士事務所 所長／公認会計士
・田村丈生氏	行政書士田村丈生事務所 所長／行政書士
・出口秀樹氏	出口秀樹税理士事務所 所長／税理士
・寺嶋典裕氏	あずさ監査法人 札幌事務所 パートナー／公認会計士
・土井尚人氏	株式会社ヒューマン・キャピタル・マネジメント代表取締役社長
・土門 亨氏	オフィス I T M 代表
・服部統幾氏	日本政策投資銀行 新産業創造部調査役
・伴 元晴氏	株式会社日本財託管理サービス 代表取締役社長
・松田博行氏	千代田アドバンス・ソリューションズ株式会社 取締役事業副統括兼 PLE 技術研究所長
・三浦淳一氏	北海道ベンチャーキャピタル株式会社 取締役
・溝渕新蔵氏	中小企業大学校旭川校／市場化テストモデル事業受託者株式会社東京リ ーガルマインド 研修事業統括マネージャー
・守内哲也氏	北海道大学遺伝子病制御研究所 教授／医師, 医学博士
・吉本平史氏	独立行政法人中小企業基盤整備機構 新連携支援事務局サブマネージャー ／中小企業診断士

* 土門亨氏の委嘱期間は平成19年11月1日-平成20年3月31日、役職／資格は平成19年11月現在です。

学外協力スタッフ—CBC Advisory Staff—とは

ビジネス創造センターの事業領域には、とくにビジネス創造のアドバイスやコーディネート活動に関する学外専門家（弁護士、会計士、弁理士、技術士等）による協力と助言が欠かせません。学外協力スタッフ制度は、公的な場での使用も想定した名称であり、学長から委嘱状を発行して学外からの協力を得るものです。

- ・登録資格
 - 小樽商科大学卒業生で、ビジネス実務者もしくは経験者。
 - 弁護士、司法書士、公認会計士、税理士、弁理士、行政書士、中小企業診断士、技術士、医師等のいずれかの資格・免許を保有する者。
 - その他、特別にセンター長、副センター長、および各部主任の推薦を得た者。
- ・登録手順
 - 本人作成による「経歴書」、および各部主任等からの「学外協力スタッフ登録推薦書」をセンター長に提出。
 - 主任会議および運営委員会で委嘱を審議。
 - 本人の署名捺印を付した誓約書の提出とともに、学長より「年度委嘱状」および「感謝状」を本人に送付。
 - 以後、双方に異議がない限り年度末に更新し、毎年 4 月に「年度委嘱状」を発行。
- ・謝金ほか
 - 【ボランティア無給】を原則とするが、協力活動に伴って発生する旅費＋日当（国家公務員規程に準ずる）を支給。また、必要に応じて適正と認められる謝金をセンター長の判断により別途支給。

Ⅱ．セミナー等開催報告

Ⅱ－1. 「北洋銀行ものづくりテクノフェア2007」出展

6月12日（火）に行われた「北洋銀行ものづくりテクノフェア2007」（於：札幌コンベンションセンター）に出展しました。

このフェアは、今年初めて開催されたものです。北海道の未来を支える“ものづくり産業”の活性化を図るため、すぐれた技術・製品を有する道内の中小企業や、大学、研究機関、支援機関等107社が出展しました。当日は2,000名を超える来場者があり、“ものづくり関係者”と商談や情報交換、技術交流等が行われました。

CBCでは、札幌医科大学、北海道東海大学とそれぞれ締結した包括協定及び、「ユーザビリティ・ラボ」のパネルでの紹介、大学紹介DVDの上映を行うと共に、ビジネス相談コーナーを設け、5名のCBCスタッフがブースにおいて来場者への対応を行いました。また、配付資料として、大学紹介、ビジネススクール紹介、センター紹介パンフレット等の資料を準備しましたが、事前に用意した60部ほとんど全てを配布することが出来ました。



来場者に説明するCBCスタッフ



会場の様子

小樽商科大学 ビジネス創造センター
ユーザーエクスペリエンス研究部門 ユーザビリティ・ラボ

ユーザ（顧客）参加型のアプローチで、
ものづくりをサポートします！

「良い機能なのに使われない」「良いアイデアと思ったのに売れない」という例は、ものづくりの過程の中で、実際のユーザ（顧客）からの検証がないままに進められた結果起こります。

一方、情報通信技術の発展により、利用者がこれまで目にしたことのないような新しい製品が開発される時代になりました。開発者側が想定される利用者と共に、開発を進めることが求められるようになっていきます。このような開発手法は「人間中心設計」と呼ばれ、欧米ICT系企業では、既に定着しつつあります。



小樽商科大学ビジネス創造センターでは、国内では初めてユーザーエクスペリエンス研究部門を設置し、ユーザビリティ・ラボをJR小樽駅前開設しました。



ユーザビリティ・ラボ概要
小樽駅前第一ビル内。総面積170㎡、実験室、実験室、16ch、32chマトリックススイッチャー。日本国内でも有数の設備。一般企業に公開。

■ラボ活用のための教育事業

情報システム入札の国際動向を見ると、多くの企業がユーザビリティ評価を体得することが求められようになります。そのためには、多くの人がユーザビリティ・ラボを利用できるようにする必要があります。小樽商科大学ビジネス創造センターでは、そのための講習会も企画しています。



■ラボの活用

ユーザビリティ・ラボは、本来のシステム（製品）のユーザテスト以外にも多くの活用ができるようになっています。ユーザを集めたフォーカスグループ（グループインタビュー）や、構造化インタビューなど、商品企画のための詳細なデータを収集できます。既に、小樽商大では、既に、多くの活用実績があります。



ネット会議分析



ユーザビリティテスト



Webユーザビリティテスト



プロトタイプ評価



フォーカスグループ



構造化インタビュー

ユーザビリティ・ラボの設備



第2実験室は、リビング環境を想定している。室内で利用する様々なシステムや製品、商品に近づく。その利用状況を分析することができる。実際に商品のメカが実装されている。



第2実験室は、それぞれの実験室に対して設定することができる。また、実験室には、多岐なカメラを設置することができ、それらをマトリックススイッチャーで切り替えることによって、総合的に観察することができる。



第1実験室は、一般的なユーザ評価をするための部屋である。その外、簡易イメージ、録音などの機能も備わっている。天井に設置されたカメラが常設されている。

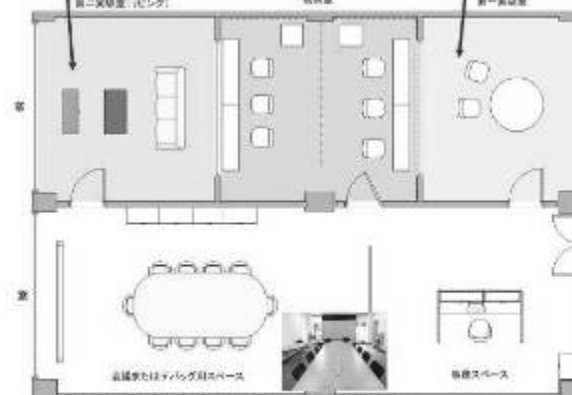


図1に示す、有線やシステム運用に利用できるスペースがある。ここでプロトタイプを開発し、実験等で検証すると、一歩の前進を支援できる。

テクノフェア展示資料

Ⅱ－2. 小樽商科大学ユーザビリティ・ラボ開所式

1 1月7日（水）、小樽駅前にある小樽駅第一ビル4階に「小樽商科大学ユーザビリティ・ラボ」が開設され、学内外の関係者 25 名の出席者により開所式を行いました。

同施設は、文部科学省知的クラスター創成事業の「札幌 IT カロツツエリア創成事業」によって整備が行われ、本年度から特別教育研究経費によって施設を整備、CBC のユーザーエクスペリエンス研究部門として位置付けられたものです。情報通信技術関連のユーザビリティ（使いやすさ）を評価するための研究を実施しており、国内でも有数の設備・システムが整備されています。

平成 19 年 3 月まで時限的に本学 5 号館に設置していましたが、共同研究の参加企業の利便性を考慮して小樽駅から数分という立地条件の良い小樽駅前第 1 ビルに移転して整備を行いました。

開所式では、秋山義昭学長の挨拶の後、同施設の責任者である平沢准教授から施設の説明、デモンストレーションなどが行われました。



挨拶する秋山学長



平沢准教授による説明

Ⅱ－3. 平成 19 年度

小樽商科大学ビジネス創造センター産学官連携研究成果報告会

3 月 7 日（金）に札幌サテライト大講義室にて「小樽商科大学ビジネス創造センター（C B C）産学官連携研究成果報告会」を開催しました。今回の報告会は札幌医科大学との共催で、同大との包括連携協定から生み出された共同研究などについて 2 本の報告を行いました。

当日の参加者は 43 名で、テーマが医療関係だったため医療関係者の出席が多く、特に実務に携わる人からはアンケートの回答が多く寄せられる等の反響がありました。

報告会の内容は以下のとおりです。

14:00 ご挨拶 海老名 誠（小樽商科大学教授・ビジネス創造センター長）

14:10－ 第 1 報告 「看護師の経験学習プロセスに関する研究」

報告者：松尾 睦（小樽商科大学大学院・商学研究科・教授）

丸山 知子（札幌医科大学保健医療学部長・教授）

概要：札幌市内の 3 病院に勤務する看護師 117 名（10 年以上の経験者）に対して、自由記述方式の質問紙調査を実施しました。調査では、キャリアを初期（最初の 5 年間）、中期（6～10 年目）、後期（11 年目以降）に分けた上で、「看護の知識・技術・考え方を身につける上で印象に残った経験」、および、「それぞれの経験から学んだ知識・技能」について回答を求めました。データを分析したところ、看護師の「段階的な熟達のパターン」「経験学習が活発化する時期」「キャリア 11 年目以降の学び」について明らかになりました。

14:50－ 質疑応答

15:10－ 休憩

15:10－ 第 2 報告 「北海道で国際取引契約の実務を学ぶ－国際取引契約研究会－」

報告者：中村 秀雄（小樽商科大学大学院・商学研究科・教授）

概要：国際取引契約研究会は、英文契約文書の作成、検討のノウハウの蓄積、技術の向上を目指すために、平成 15 年にスタートした道内では類のない研究会です。専ら実務に役に立つことを目的としています。札幌その他で年平均 10 回ぐらいの研究会を、夜間に開いてきました。会社員、公務員、弁護士、行政書士などが会員です。また活動の延長として、札幌医科大学の国際契約業務に協力したり、道内の企業へもノウハウを提供するに至っています。これらも含めてどのような活動をしてきたかを、資料とデータを使って報告します。

15:50－ 質疑応答

16:00－ 閉会



松尾睦教授



丸山知子教授



中村秀雄教授



会場の様子

Ⅱ-4. 平成 19 年度小樽商科大学地域活性化セミナー

「“小樽の魅力”を売り込む工夫」

本学ビジネス創造センター主催の地域活性化セミナーが、平成 19 年 3 月 15 日に小樽運河プラザ三番庫を会場として開催されました。今年と同セミナーは「“小樽の魅力”を売り込む工夫」と題して、本学アントレプレナーシップ専攻の近藤公彦教授と本学社会情報学科の木村泰知准教授の講演を基調にして、小樽の魅力とは何か、その魅力を誰にどのように伝えていくのか、そのために必要な新しい工夫は何か、という議論に参加していただいた多くの市民のみなさまと共に議論しました。

セミナーの前半は、2 名の講師がそれぞれの専門の立場から地域活性化のヒントを解説しました。マーケティングが専門の近藤教授は「売れるしくみ 売るくふう ～誰でも分かるマーケティング入門～」と題した講演のなかで、マーケティング的発想で地域の魅力を発見し、これを売り込んでいくことが、今後の小樽の活性化、なかでも観光産業の振興において重要であると指摘がありました。木村准教授による講演「チイキの魅力を発信するしかけ～ウェブを活用した地域おこしの取り組み～」では、専門の言語処理を応用したウェブコミュニティを小樽活性化の起爆剤にする試みが紹介されました。講演の後には、実際に携帯電話から写真を投稿してウェブ上で共有するデモも行われ、小樽フィルムコミッションと産学官連携によって映画などの撮影場所に付加価値を与えて観光資源とするアイデアなども紹介されました。

後半は、ビジネス創造センター副センター長の大津准教授がモデレータとなって、会場からの質問や問いかけを基に「小樽の魅力」について議論を深めました。会場からは「小樽に住む人が小樽のことをもっと知るべき」といった意見や、「インターネットの情報は信頼できるのか」などの質問が寄せられ、両講師のからは「観光客は小樽へどういう想いをもって来てくれるかを読むことが大事」、「責任ある良心的な情報が提供されるような仕組みが必要」と回答がありました。最後に本セミナーの企画主旨である「市民自身が主体的に小樽の魅力を発見しそれを発信してということが真の小樽活性化に繋がる」というメッセージを参加者全員が共有して今年度の地域活性化セミナーは幕を閉じました。

天候不順のなか足を運んでいただいた 60 名ほどの市民のみなさまからは、アンケートを通じて、ほとんどの方がセミナーの内容について「満足した」という感想をいただき、加えて「今後も定期的に（より高い頻度で）開催して欲しい」といった要望や激励をいただきました。今後も引きつづきさまざまな活動を通して小樽の活性化を支援していきたいと思います。

プログラム

14:00ー 主催者挨拶 山本眞樹夫（小樽商科大学副学長・地域貢献推進委員長）

14:10ー 第一部 講演

近藤公彦「モノが売れるしくみ売るくふう～誰でも分かるマーケティング入門～」

木村泰知「チイキの魅力を発信するしかけ～ウェブを活用した地域おこしの取り組み～」

15:00ー（休憩／デモンストレーション・コミュニケーションタイム）

15:20ー第二部 パネルディスカッション「小樽のミリョク・魅力的なオタル」

モデレータ：大津 晶（小樽商科大学社会情報学科准教授・ビジネス創造センター副センター長）

パネリスト：近藤公彦，木村泰知

15:55ー 閉会挨拶 海老名 誠（小樽商科大学教授・ビジネス創造センター長）



木村准教授によるデモ



パネルディスカッション

Ⅲ. 平成19年度受託研究・受託事業・共同研究・後援会助成金受入実績一覧

Ⅲ－1. 受託研究

委 託 者	研 究 題 目	研究期間	研究者所属・職・氏名			研究経費(円)
製造業	車載情報機器の要求定義プロセスについての研究 (平成 19 年 12 月 28 日変更契約)	19.7.10 ～ 20.3.31	社会情報	准教授	平沢 尚毅	12,270,000
札幌市	若年層の職場定着を支援するケーススタディプログラムの開発に関する研究	20.2.12 ～ 20.3.31	大学院商学研究科	教授	松尾 睦	2,940,000
計 2 件						15,210,000

Ⅲ－2. 受託事業

委 託 者	委 託 事 業 名	委託期間	業務担当代表者所属・職・氏名			事業経費(円)
札幌医科大学	「知的財産活用調査分析」事業 (平成 20 年 3 月 24 日変更契約)	19.4.1 ～ 20.9.30	C B C	センター長	海老名 誠	4,700,000
情報・システム研究機構	「小樽商科大学学術成果アーカイブ（仮称）構築業務」 (図書館契約)	19.7.1 ～ 20.3.31	附属図書館	館長	渡邊 和夫	1,500,000
計 2 件						6,200,000

Ⅲ－3. 共同研究

共同研究先	研 究 題 目	研究期間	研究者所属・職・氏名			研究経費(円)
有限会社カラットマリンシステム	小樽運河観光船プロジェクト (平成18年度からの継続)	18.9.4 ～ 20.3.31	CBC アントレ専攻 CBC	教授 教授 助手	海老名 誠 奥田 和重 今野 茂代	(200,000)
社団法人全日本病院協会	医療トップマネジメント研修におけるケーススタディーの有用性についての分析 (平成18年度からの継続)	18.7.25 ～ 20.3.31	商学科 アントレ専攻 企業法学科 一般教育系 商学科 商学科	教授 教授 教授 教授 助教授 助教授	伊藤 一 李 済民 片桐 由喜 中川 喜直 前田 東岐 乙政 佐吉	(2,000,000)
株式会社データクラフト	ユーザビリティソリューション研究	19.5.17 ～ 20.3.31	社会情報学科	准教授	平澤 尚毅	30,000
株式会社コネクトテクノロジー	ユーザビリティソリューション研究	19.5.31 ～ 20.3.31	社会情報学科	准教授	平澤 尚毅	100,000
トヨタテクニカルディベロップメント株式会社	車載情報機器の要求定義プロセス支援ツールの研究 (共同研究員の受け入れ)	19.7.10 ～ 20.3.31	社会情報学科	准教授	平澤 尚毅	1,680,000 (研究料)
株式会社日本ヘルスシステム研究所	医療経営人材育成事業での教育ケース作成プロジェクト	19.6.26 ～ 20.3.31	商学科 商学研究科 企業法学科 一般教育 商学科	教授 教授 教授 教授 准教授	伊藤 一 李 済民 片桐 由喜 中川 喜直 乙政 佐吉	3,000,000
株式会社リベラルタス・コンサルティング	大学の教育課程等で活用可能な副教材「(仮称)積極経営者に学ぶ指南書」の開発	19.11.2 ～ 20.3.31	商学研究科	教授	出川 淳	600,000
株式会社北洋銀行	自立型の地域経済の再生をめざし地域資源の発掘と事業化	20.3.28 ～ 21.3.31	商学科	教授	伊藤 一	500,000
株式会社北洋銀行	北海道における国際取引推進の研究	20.3.28 ～ 21.3.31	商学研究科	教授	中村 秀雄	1,000,000

合計 7 件 (新規のみ)	6,910,000
------------------	-----------

Ⅲ－4. 小樽商科大学後援会助成事業

事業名	金額
C B C 研究成果報告会	113,131
合計 1 件	113,131

IV. 研究活動の成果と成果の公刊

IV-1. ユーザーエクスペリエンス研究部門の活動

担当(◎は、研究部門として受託、後援)	契約等区分(備考)	期間	形態	掲載誌・紙名、書籍名、催事名	タイトル	主催者	備考
山田	研究会(委員)	4.1-3.31		広報・企画WG		土木技術者女性の会	2008年度も継続
平沢	受託研究等(技術指導)	4.1-3.31			(非公開)	(非公開)	
◎	受託研究等(共同研究)	4.17-3.31			車載情報機器の要求定義プロセス支援ツールの研究	トヨタテクニカルディベロップメント株式会社	
平沢	受託研究等(共同研究)	4.27-3.31			ユーザビリティソリューション研究	株式会社データクラウド	
平沢	受託研究等(共同研究)	5.18-3.31			ユーザビリティソリューション研究	株式会社コネクテック・テクノロジーズ 札幌支社	
平沢	受託研究等(学術研究助成金)	5.22				東京エレクトロンソフトウェア・テクノロジーズ株式会社	
山田	学会(委員)	6.1-5.31		男女共同参画小委員会		(社)土木学会	2008年度も継続
平沢	(技術指導)	6.15-3.31			(非公開)	(非公開)	
◎	受託研究等(受託研究)	6.25-3.31			車載情報機器の要求定義プロセスについての研究	トヨタテクニカルディベロップメント株式会社	
平沢、葛西	学会	7.22-7.27	論文	HCI 2007	Understanding Requirements of Ubiquitous Application - In Context of Daily	HCI	
平沢、葛西	学会	7.22-7.27	論文	HCI 2007	Envisioning Concept of Communication Tool for Elderly	HCI	
平沢、葛西	学会	7.22-7.27	論文	HCI 2007	Critical Activities Specified in Usage Lifecycle of Digital Images	HCI	
平沢、葛西	学会	7.22-7.27	論文	HCI 2007	Micro-Scenario Database for Substantializing the Collaboration Between Human Science and	HCI	
平沢、尾形	学会	7.22-7.27		HCI 2007	Searching Image Data in Daily Life	HCI	
山田	研究会(世話人)	8.1-3.31		「北のゲートウェイ」としての北海道の活き方検討会		(株)ヒット総合研究所	
山田	(共著)	9.1	書籍	水道サービスが止まらないために～水道サービスの再構築と官民連携～	水道事業における官民連携手法の導入	時事通信社	執筆時はHVC戦略研究所所属
平沢、尾形	学会(共著)	9.11		平成19年度日本人間工学会アーゴデザイン部会 コンセプト事例発表会	UI仕様における利用品質作り込みプロセスの考察	日本人間工学会アーゴデザイン部会	
平沢	(技術指導)	9.14-3.31			(非公開)	(非公開)	
◎	研究会(後援)	10.2		ソフトウェアテストシンポジウム		JASST	
平沢、尾形、桶谷、葛西、黒田	その他	11.7			ユーザビリティラボ開所式	CBC	

◎		11.7	記事	小樽ジャーナル	小樽商大, ユーザビリティラボ開設!		
◎		11.8	記事	北海道新聞	小樽商大が「ラボ」JR駅前 企業, 自治体向け開放/IT製品 使いやすさ検証		
平沢	学会(座長)	11.10		平成19年度日本人間工学会北海道支部大会	セッションA:「医療分野の人間工学」	日本人間工学会北海道支部	
平沢、尾形、葛西	学会(共著)	11.10	論文	平成19年度日本人間工学会北海道支部大会	UI仕様検討における利用品質作り込みプロセスの考察	日本人間工学会北海道支部	
◎		11.15	記事	読売新聞	製品の使いやすさをチェック/小樽商大が「ラボ」開設		
平沢		12.11	講演	北海道IT推進協会経営者向けセミナー	経営にユーザビリティを生かす	北海道IT推進協会	
平沢、葛西	研究会	1.21	講演	北海道IT推進協会技術者向けセミナー	技術者のためのユーザビリティ基礎	北海道IT推進協会	
平沢、葛西、山田	学会(共著)	1.25	論文	第14回社会情報システム学シンポジウム	札幌地域の行政システムにおける人間中心設計導入の試み	社会情報システム学研究会	
平沢	(技術指導)	2.10-3.31			(非公開)	(非公開)	
山田	研究会(共催)	2.29		第4回セミナー「ソフトウェア開発と人間中心設計」		HCD-Net	
平沢	(講師)	2.29	講演	第4回セミナー「ソフトウェア開発と人間中心設計」	ソフトウェア開発と人間中心設計との関わり	HCD-Net	
葛西	(講師)	2.29	講演	第4回セミナー「ソフトウェア開発と人間中心設計」	ソフトウェア技術者向けの人間中心設計教育について	HCD-Net	
平沢	研究会	3.14	講演	HCD-Net 賛助会員向けセミナー	人間中心設計の最新動向	HCD-Net	
山田	研究会(共催、司会)	3.19		レクチャーディスカッション	女性の職場復帰支援プログラム:マネジメントの視点から	在札幌米国総領事館	
平沢、尾形、葛西	学会(主催)	3.28		人間工学会社会と情報社会人間工学研究部会		人間工学会社会と情報社会人間工学研究部会	
山田	(執筆)	3.28	報告書	「北のゲートウェイ」としての北海道の活き方検討会 開催報告書		(株)ヒット総合研究所	非公開
山田	(共著)	3.31	論文	平成20年度全国大会 第63回年次学術講演会	土木学会法人会員の男女共同参画への取り組みに関する実態調査(速報)	(社)土木学会	投稿中
平沢		—			(非公開)	(非公開)	
平沢		—			(非公開)	(非公開)	

平沢尚毅(研究部門長) 尾形慎哉(学術研究員) 桶谷利幸(学術研究員)
葛西秀昭(学術研究員) 黒田英雄(学術研究員) 山田(河合)菊子(学術研究員)

IV-2. 登録研究会の活動

ビジネス創造センターに登録している研究組織の平成 19 年度における活動状況は以下のとおりです（ABC 順）。

ビジネス・プラン研究会

1. 代表幹事名：松尾 睦（院アントレプレナーシップ専攻・准教授）
2. 目的・内容：
ビジネス・アイデアからビジネス・プランを策定・展開することに関する理論的および実践的な手法の開発を行います。

地方政府レベルにおける多文化主義的地域政策研究会

1. 代表幹事名：相内俊一（院アントレプレナーシップ専攻・教授）
2. 目的・内容：
北海道の市町村における多文化主義的地域政策推進のための諸条件, 政策領域の可能性などについて, 比較文化的観点から研究し, 地方政府の政策形成に寄与することを目的とします。

地方政治システム研究会

1. 代表幹事名：相内俊一（院アントレプレナーシップ専攻・教授）
2. 目的・内容：
地方政府のマネジメントを、財政バランス・政策選択の優先順位・住民満足度・発展戦略などの観点から研究します。
3. 平成 19 年度活動実績：毎月 1 回 3 時間、札幌サテライトにおいて研究会を開催。

地域環境問題研究会

1. 代表幹事名：八木宏樹（一般教育等・教授）、事務局：山本 充（院アントレプレナーシップ専攻・准教授）
2. 目的・内容：
地域社会が抱える環境問題を自然科学・社会科学の両面から分析し、その解決に向けた処方箋や情報を提供することを目的とします。

CS(カスタマー・サティスファクション)研究会

1. 代表幹事名：伊藤 一（商学科・教授）

2. 目的・内容：

目的：企業の顧客満足経営を実現することを目的とする研究。

内容：研究対象はサービス産業を中心に調査を展開。これまでの実績としてはホテル業を対象に実施。平成16年は飲食業のCS調査を実施。

土曜研究会

1. 代表幹事名：若井克俊（経済学科・准教授）・藤生源子（経済学科・准教授）

2. 目的・内容：

経済研究会（土曜研究会）は、昭和33年（1958年）に発足し、当学内で最も長期的に継続実施されている経済学・社会科学の研究会です。

この研究会の目的は当学における研究活動に対する啓蒙であり、当学内外の研究者の研究報告により、経済学の最新の研究テーマに触れる機会を当学研究者に提供するとともに、テーマを巡る議論を通じて研究会参加者の研究活動を促進することです。

3. 平成19年度活動実績：

開催日	報告者（所属）	報告タイトル
6. 12(火)	橘木俊詔（同志社大学）	格差社会の行方
9. 4(火)	赤井伸郎（大阪大学）	Soft budgets and local borrowing regulation in a dynamic model with decentralized leadership
9. 28(金)	小田正雄（島根県立大学・立命館大学）	Welfare Enhancing Direct Investment
10. 19(金)	阿部修人（一橋大学）	価格改定頻度及び特売と消費者物価指数の動向－大規模POSデータに基づく考察－
10. 26(金)	小椋正立（法政大学）	家族介護者の負担感の分析
11. 9(金)	荒川章義（九州大学）	ノイマンとゲーム理論の起源
11. 15(木)	敦賀貴之（日本銀行金融研究所）	Do Sticky Prices Need to Be Replaced with Sticky Information?
11. 16(金)	村澤康友（大阪府立大学）	経済学の成績に対する数学学習の効果
12. 7(金)	渡部和孝（慶応大学）	How Do Relationship Lenders Price Loans to Small Firms? “Hold-Up” Costs, Transparency, and Private and Public Security
12. 14(金)	石川竜一郎（筑波大学）	A Simulation Study of Learning a Structure: Mike’s Bike Commuting
1. 25(金)	尾山大輔（一橋大学）	Trade and Entrepreneurship with Heterogeneous Workers
1. 25(金)	安藤至大（日本大学）	Reputation Management and Seniority Systems in Firms
2. 1(金)	原千秋（京都大学）	Aggregation of state-dependent utilities
2. 15(金)	工藤教孝（北海道大学）	Strategic Price Posting

2. 22(金)	関口格 (京都大学)	Optimal Sharing Rules in Repeated Partnerships
3. 14(金)	山田宏 (広島大学)	Some Empirical Evidence on Business Cycle Transmission from the US to Japan

4. 平成19年度研究成果（刊行物，HPなど）：

経済研究会活動履歴

<http://www.otaru-uc.ac.jp/dept/econ/workshop.html>

遠隔教育研究会

1. 奥田和重（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

2. 目的・内容：

遠隔教育の経済性評価に関する実証研究を行う。自治体の教育委員会や小・中学校と連携して遠隔教育システムを構築し，その経済性を評価するとともに，教育心理学の視点からシステムの有効性を評価する。

北海道ヘルスケア・マネジメント研究会

1. 代表幹事名：李 濟民（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

2. 目的・内容：

「医療経営」に関する研究，調査，セミナーを実施

北東アジア・サハリン研究会

1. 代表幹事名：李 濟民（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

2. 目的・内容：

経済活性化が望まれている北海道と大規模石油・ガス開発プロジェクトを実現しつつあるサハリンとの関係を中心軸にとり，それを取り囲む北東アジア地域の様々な問題群を検討します。

法制研究会

1. 代表幹事名：玉井利幸（企業法学科・准教授） 齋藤由起（企業法学科・准教授）

2. 目的・内容：

広く法律学一般に関する学術の進歩を図るため、これに必要な調査研究発表を行うとともに、教官相互の研鑽と大学院教育の向上に寄与すること。

内容：小樽商科大学商学部企業法学科所属の教官および院生の研究発表。

1998年度以降は、大学院科目「法学総合研究A」「法学総合研究B」として、大学院生の教育の場ともなっています。

3. 平成19年度活動実績：7回開催。

月日 (回(通算))	報告者	報告題目
5.16(水) (1(96))	韓 文選 (小樽商科大学大学院商学研究科修士課程)	大規模小売業者による優越的地位の濫用について
6.20(水) (2(97))	遠山純弘 (小樽商科大学准教授)	不能と解除—債務法改正に向けて—
7.18(水) (3(98))	才原 慶道 (小樽商科大学准教授)	(判例評釈) 内部分裂と不正競争防止法 2 条 1 項 1 号の請求権者—東京地判平 16.3.11 平 13(ワ)21187 と東京高判平 17.3.16 平 16(ネ)2000 を素材に—
10.31(水) (4(99))	河野 憲一郎 (小樽商科大学准教授)	ドイツにおける調停手続への関心の高まりと日本における民事調停手続—帰朝報告を兼ねて
11.21(水) (5(100))	佐藤寿志 (小樽商科大学大学院修士課程)	法人税法 34 条に規定する「不相当に高額な部分の金額」について—判例研究 名古屋地判 平成 6 年 6 月 15 日—
11.21(水) (5(100))	井上文人 (小樽商科大学大学院修士課程)	会社法における少数派株主の締め出し
12.12(水) (6(101))	松岡清華 (小樽商科大学大学院修士課程)	独占禁止法 25 条の存在意義について
12.12(水) (6(101))	韓 文選 (小樽商科大学大学院修士課程)	大規模小売業者による優越的地位の濫用
1.23(水) (7(102))	南 侑太 (小樽商科大学大学院修士課程)	租税回避行為の否認—私法上の法律構成による否認論の民法理論からの検討—
1.23(水) (7(102))	八木澤 礼子 (小樽商科大学大学院修士課程)	過払年金に対する返還請求の可否

4. 平成19年度研究成果（刊行物、HPなど）：

平成19年度に開催された法制研究会の各報告題目などが、

<http://www.otaru-uc.ac.jp/dept/law/housei/housei07.html> で公開されています。

ICT 研究会

1. 代表幹事名：奥田和重（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

2. 目的・内容：

「北海道（地域）あるいは企業の情報化に関わる課題の解決を図りながら I C T（情報通信技術：Information-Communication Technology）による社会・経済的価値の創造を考える」ことを目的としています。本研究会の活動は、具体的には以下の課題を中心に議論を行い解決の可能性を検討することです。

1. 北海道（地域）の情報インフラの整備と地域経済の活性化
2. 企業とマーケット（顧客），企業と企業，企業内における情報化
3. 情報教育と人材育成

会計研究会

1. 代表幹事名：坂柳 明（商学科・准教授）

2. 目的・内容：

「世界に開かれた会計」を目指し、国際会計基準の歴史的変遷について、知識を深めることを目的としています。

3. 平成19年度活動実績：

(1)：7. 7（土）：Camfferman and Zeff（2007）, Camfferman, Kees and Stephen A. Zeff, “Financial Reporting and Global Capital Markets,” Oxford：Oxford University Press, 2007. の第1章を輪読及び討論

報告担当者：松本康一郎先生（北星学園大学）

(2)：7.27（金）：上記 Camfferman and Zeff（2007）の第2～3章を輪読及び討論

報告担当者（2章）：松本康一郎先生（北星学園大学）

報告担当者（3章）：渡辺和夫先生（小樽商科大学）

(3)：9.17（月）：上記 Camfferman and Zeff（2007）の第4～5章を輪読及び討論

報告担当者（4章）：檜山純先生（北星学園大学（非常勤））

報告担当者（5章）：原晴生先生（札幌学院大学）

(3)：10.16（火）：上記 Camfferman and Zeff（2007）の第5～6章を輪読及び討論

報告担当者（5章）：原晴生先生（札幌学院大学）

報告担当者（6章）：今村聡先生（北海学園大学）

(4)：10.27（土）：上記 Camfferman and Zeff（2007）の第7～8章を輪読及び討論

報告担当者（7章）：篠本智之先生（小樽商科大学）

報告担当者（8章）：片山郁雄先生（函館大学）

(5)：11.18（日）：上記 Camfferman and Zeff（2007）の第9章を輪読及び討論

報告担当者（2章）：松本康一郎先生（北星学園大学）

（6）：その他、

5月19日（土）に、石坂信一郎先生（札幌学院大学）より、「わが国の公会計制度の充実と課題」との報告を、今村聡先生（北海学園大学）より、「チューリヒ大学での研修について」との報告を頂きました。

12月23日（日）に、大沼宏先生（東京理科大学）より、「非適格組織再編に臨む経営者の経済的動機」との報告を、渡辺和夫先生（小樽商科大学）より、「『財務会計変遷論』要旨」との報告を頂きました。

経営研究会

1. 代表幹事名：高田聡（商学科・教授）

2. 目的・内容：

経営学に関する理論及び実証研究を中心に研究報告会を開催。商学科経営学講座のスタッフが中心となる活動であるが、より広く報告・参加者を募り、知識の幅広い交流も目指しています。

3. 平成19年度活動実績：3回開催

日時	報告者	論題
5.24（木） 午後2時半～	玉井健一	中小製造業の競争戦略
9.18（火） 午後3時～	松尾 睦	医療組織における学習プロセス：淀川キリスト教病院と医療生協さいたまの事例
11. 5（月） 午前10時半～	近藤公彦	組織能力としてのCRM（マーケティング研究会との共催）

*会場は 研究棟B会議室

国際取引契約研究会

1. 代表幹事名：中村秀雄（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

2. 目的・内容：

- ① 輸出入取引、国際取引のノウハウ
- ② 国際的事業をどう構築すればよいか
- ③ 国際取引契約書（特に英文契約書）検討のコツを勉強します

3. 平成19年度活動実績：

実施回数 8回/合計参加人数 計47人 実施場所はすべて札幌

マーケティング研究会

1. 代表幹事名：プラート・カロラス（商学科・准教授）

2. 目的・内容：

本研究会の目的はマーケティング分野における最新研究に関する情報交換及び研究者交流の場を設けることです。本研究会におきましては、マーケティング関連の学内及び学外研究者による最新研究の報告、議論を行います。

3. 平成19年度活動実績：

第1回目のマーケティング研究会は経営研究会・マーケティング合同研究会として行われました。

日時 11.5（月）午前10：30-12：00

場所 小樽商科大学研究棟B会議室

報告者 近藤 公彦 先生

論題 「組織能力としてのCRM」

小樽運河観光船プロジェクト研究会

1. 代表幹事名：海老名 誠（ビジネス創造センター長・教授）

2. 目的・内容：

小樽運河は小樽のもっとも重要な観光資源であると同時に、小樽市民にとっての宝とも言うべき特別な資産です。この運河を小樽の産官学で守り、同運河の更なる活性化を目指し、同運河に運河船（Canal Boat）を運航するプロジェクトを立ち上げる為、共同研究を行います。

特色：小樽運河の利用・活性化を巡っては、過去数度に亘り企画が取り沙汰され、その度に頓挫して来ました。その理由は、企画主が本州資本であったり、商業主義利潤追求を目的としたからです。本プロジェクトでは、小樽資本による、小樽のための、小樽の総力戦（オール小樽）で研究する点に特色があります。

3. 平成19年度活動実績：

昨年度に引き続き、オール小樽体制確立のために共同研究メンバーが関係機関、小樽市および関係団体・関係者等（小樽市経済部、同港湾部、小樽観光協会等）を訪問し、プロジェクトについての説明、ヒヤリングを行いました。

また、広くプロジェクトの意義と概要を周知するため、説明用DVD、ビデオテープを作成しました。

4. 平成19年度研究成果（刊行物、HPなど）：

『小樽運河景観再発見：オール小樽による Canal Boat プロジェクト』（DVD、ビデオテープ）

進化経済学ワークショップ

1. 代表幹事名：江頭 進（経済学科・准教授）
2. 目的・内容：
経済・社会の複雑な発展過程を「進化」をキーワードとして、さまざまな角度から分析します。その特に複製子-相互作用子の概念を基礎としながら、経済・社会を知識生態系として捉え、その発達と崩壊過程を論じることを目的としています。
3. 平成19年度活動実績：
 5. 16（土）：出版打ち合わせ（TV会議）
 5. 23（土）：出版打ち合わせ（TV会議）
 9. 21（金）：研究会合（会場：鹿児島国際大学）
 3. 23（日）：研究会合（会場：鹿児島国際大学）
4. 平成19年度研究成果（刊行物、HPなど）：
 9. 21（金）：第12回進化経済学会サマースクール報告（鹿児島国際大学）
 3. 24（土）：第12回進化経済学会年次大会セッション企画（鹿児島国際大学）

商学研究会

1. 代表幹事名：渡辺和夫（商学科・教授）
2. 目的・内容：
商学科所属教官全員がメンバー。商学科教官および学外の研究者による研究発表ならびに意見交換等を行う。各教官の研究内容について、これを専門分野にとらわれることなく、多角的な視点から議論することを特色とします。
3. 平成19年度活動実績：

開催日	報告者	報告
5. 12（土）	前田 陽	戦前におけるトヨタ自動車の原価管理
5. 12（土）	大岩利依子	無形資産及び知的財産の課税に関する考察－アメリカ合衆国の税制を中心に
2. 4（月）	Dr. MOhamedAslam （マラヤ大学経済 行政学部上級講師）	East Asian Economic Integration and the Role of Japan

SBM研究会 <スモール・ビジネス・マーケティング研究会>

1. 代表幹事名：下川 哲央（大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻・教授／ビジネス創造センター・フェロー／北海道産学官研究フォーラム「経営情報部会・部会長」）

2. 目的・内容：

主として札幌圏の中堅・中小企業経営者・幹部社員等を対象とし、企業経営の発展に不可欠でありながら最大の弱点にもなっているマーケティング能力の向上、マーケティング・マインドの醸成に寄与する理論やスキルの追究・普及等を図ることを目的とするセミナー、ワークショップ等の活動を定期的に行います。

3. 平成19年度活動実績：

開催日付	講師	テーマ（区分／開催場所）
6. 26(火)	講師1: 下川哲央氏（小樽商科大学） 講師2: 大家 昇氏（日本産業心理 コンサルティング協会インスト ラクター）	顧客価値の創造のための戦略的経営セミナー ー最短最速のコミュニケーションノウハ ウとはー
7. 31(火)	話題提供 & モデレーター：下川 哲央氏（小樽商科大学）	「納豆ダイエット事件の教訓ーマーケティ ングの切り口」(SBMワークショップ(第1回))
8. 23(木)	佐藤瑞嘉氏（株CTC 代表取締役）	「あなたの会社はもっとよくなる」ーインサ イドアウト・ビジネスコーチングとはー(ビ ジネス・コーチングセミナー)
9. 26(水)	話題提供：山内浩二氏（山内ビニ ール加工(株)営業部次長） モデレーター：下川哲央氏（小樽 商科大学）	「山内ビニール加工(株)のケースについて (PART1)」(SBM ワークショップ（第2回））
11. 9(金)	話題提供：山内浩二氏（山内ビニ ール加工(株)営業部次長） モデレーター：下川哲央氏（小樽 商科大学）	「山内ビニール加工(株)のケースについて (PART2)」(SBM ワークショップ（第3回））
11. 20(火)	石森秀三氏（北海道大学観光学高 等研究センター長） 加納民雄氏（北海道開発局 建設 部道路計画課 開発専門官） 戸川達雄氏（北海道旅客鉄道(株) 鉄道事業本部営業部課長） 橋本徹哉氏（北海道 CMC(株) 営業 推進部 推進担当）	「観光立国北海道に向けた観光創造とは」 (観光イノベーション戦略セミナー (SBM/ 経営情報部会共催))
2. 18(月)	講師：上野正彦氏（日本銀行 札 幌支店長） コメンテーター：下川哲央（小樽 商科大学）	～2008 年 北海道の景気動向と今後の行方 ～(北海道経済ビジネス戦略セミナー (SBM/ 経営情報部会共催))

3.12(水)	話題提供：須藤修氏（㈲オフィス ヴォイジュ 代表取締役社長） モデレーター：下川 哲央氏（小 樽商科大学）	「スープカレーの店 ㈲オフィスヴォイ ジュのケース」(SBM ワークショップ(第4回))
---------	--	---

（備考）SBM研究会は代表幹事（下川哲央）が平成20年3月末をもって本学を退職したことから、CBC登録研究会としての活動報告は平成19年度分をもって終了する。なお、SBM研究会自体は平成20年度より、SBM＝Strategic Business Manegement（戦略経営）研究会と変更の上、引き続き下川哲央を代表幹事として活動を継続中である。

IV－3. Discussion Paper Series

平成 19 年度に発行したディスカッション・ペーパーは以下の 3 編です。

* 概要の Web での公開を希望しない執筆者の概要は削除されています。

No.111 松尾 睦;正岡経子;吉田真奈美;丸山知子;荒木奈緒:看護師の経験学習に関する記述的分析

No.112 飯田浩志:頂点被覆へのリスト減少法の解析に関する一考察

概要：頂点被覆は，NP 困難な組合せ最適化問題ゆえに，多項式時間では解き得ないと考えられている．他方，頂点被覆には，いくつかの近似解法が提案されている．これら近似解法には，大きく分けて二種類，即ち，与えられたグラフの最大次数を Δ として近似率 $O(\log \Delta)$ を与えるものと近似率 2 を与えるものがある．近年，この頂点被覆に対するある近似解法が，近似率 $\sqrt{\Delta/2+3/2}$ を与えることが示された．ここでは，その近似率を導出した解析に若干の修正を加えて，より良い近似率を導くことを試みる．

No.113 松尾 睦:小中学校における校長の経営観－探索的分析－

IV-4. 研究成果, 各種メディアへの寄稿および講演

(氏名五十音順)

氏 名	主催・メディア名等	日 付	テーマ・タイトル
海老名誠	週刊世界と日本 1755号	4. 16	危機意識が景気を回復させる：産・学・官で「ストップ第2の夕張」(北海道メール)(寄稿)
	地銀協月報 No. 564	6 月号	産学官金連携の動向と地方銀行の役割(特集活発化する産学官金連携)(寄稿)
	北海道新聞	7. 4	産学官連携で輸出に勝機：香港市場で小樽の食品需要調査 海老名誠・樽商大教授に聞く
	小樽市老壮大学	7. 11	第3回特別講座(講師)
	東アジアマーケット リサーチ事業実行委員会	7. 17	報告会(講師)
	札幌市	8. 23	さっぽろまちづくりトーク(座談会)
	調査レポート(北洋 銀行) No. 136	11 月号	「北海道に外貨導入政策」を：アジア経済発展の軌跡と米国の考え方を参考に(寄稿)
	文部科学教育通信 No. 184	11. 26	「地域に根ざした大学」を目指して：小樽商科大学の地域連携活動(寄稿)
	週刊世界と日本1791 号	2. 4	呼び戻せ！夢と希望の新天地(北海道メール)(寄稿)
	札幌国際プラザ	2. 8	札幌から東アジアへ、東アジアから札幌へ
	緑丘 第103号	2. 19	商大のC B C活動(寄稿)
	JICA	2. 26	研修会(講師)
近藤公彦 (つづく)	小樽観光大学校	3. 22	ブラッシュアップ講座(講師)
	マーケティング戦略 研究会講師	4 月～12 月	マーケティング理論の講義とディスカッション
	日本マーケティング 協会講演	5. 24	価値転換のマーケティング
	オープンユニバーシ ティ模擬講義	6. 16	ヒット商品の論理
	ナレッジプラザ函館 ビジネス塾講演	8. 23	価値創造のマーケティング
	北海道中小企業家同 友会同友会大学講演	8. 27	マーケティングの基本戦略
	北海道経済産業局 ベンチャー企業のラ ストワンマイルを繋 ぐマーケティングセ ミナー講演	9. 8	価値創造のマーケティング
	日経テレコン21情報 活用セミナーin札幌 講演	9. 21	「勝ち」を創るブランド戦略
	日本マーケティング 協会講演	10. 18	価値創造のブランド戦略
	建設業新分野進出ス テップアップ・ゼミ ナール講演	10 月～11 月	マーケティングの基本戦略
	ナレッジプラザ札幌 ビジネス塾講演	10. 22	マーケティングのニューフロンティア

近藤公彦 (つづき)	HBC出演	10月～3月	Hanaテレビ レギュラー・ゲストコメンテーター
	日本マーケティング協会『マーケティング・ジャーナル』”第27巻第3号	1月	「組織能力としてのCRM」(論文)
	HTB出演	1.10	イチオシ! 「巨大スーパーコストコの戦略」コメント
	東京中小企業育成投資株式会社北海道新年交歓会講演	1.24	顧客満足経営とマーケティング
	おびしん地域経営塾講演	2.21	顧客満足経営とマーケティング
	北海道中小企業家同友会同友会大学講演	3.10	マーケティングの基本戦略
	ナレッジプラザ帯広ビジネス塾講演	3.13	顧客満足とマーケティング
	小樽商科大学地域活性化セミナー講演・パネリスト	3.15	売れる仕組み売る工夫
齋藤一朗	『朝日新聞』	11.26	「私の拓銀論③頭取の統率力弱かった」(インタビュー)
	『クオリティ』第494号	1月	「信金・信組は地域・人間密着に進め」(インタビュー)
	『しゃりばり』第312号	1月	「膨張する道債残高とそれを許容した財政上の論理」(寄稿論文)
	金融学会北海道部会	8.18	「北海道経済の貯蓄投資バランスと金融システム」(学会報告)
	北海道放送・ラジオ	月1～2回 (4月～3月)	「タ刊ほっかいどう」(コメンテーター)
	北海道放送・テレビ	月1～2回 (4月～7月)	「hana テレビ」(コメンテーター)
	北海道文化放送・テレビ	4.24	「トーク de 北海道」(コメンテーター)
	民放労連・道地連学習会	2.7	「民間放送会社の経営を診る」(講演)
	北海道財務局	2.18	「地域密着型金融シンポジウム 2008」(パネリスト)
	北海道信用金庫協会・しんきん研究会	3.21	「道内信用金庫の進むべき方向」(講演)
才原慶道	『知的財産法政策学研究』第18号	12月	「内部分裂と不正競争防止法2条1項1号の請求権者」(論文)
田野有一 (つづく)	北見工業大学トランポリン競技部 部誌『微光』第32号	4.1	微光 “それは確かな輝きをもった光
	北海道トランポリン協会 機関誌『翻天』第26号	4.1	1. JTA [社団法人・日本トランポリン協会] ニュース 2. EJTA [東日本トランポリン協会] ニュース

田野有一 (つづき)	小樽商科大学トランポリン競技部 部誌『翔舞』号外・夏号	9. 27	秋田・大館『夏の陣』から学ぶ
	NPO法人 小樽体育協会『創立80周年記念史』	11. 17	1. “傘寿”を迎えた小樽体育協会 2. スポーツ界を通して見た“日本人像”① 3. スポーツ界を通して見た“日本人像”②
	小樽商科大学トランポリン競技部 部誌『展海回天』第25号	2. 29	スポーツ活動が及ぼす人格への影響
	北見工業大学トランポリン競技部 部誌『微光』第33号	3. 12	私が知りえた「院生；森田雄貴」
	北海道体操連盟 機関誌『体操・北海道』2008号	3. 31	第13回ジムナストラダ視察記
	北海道体操連盟 機関誌『体操・北海道』2008号	3. 31	第62回「秋田わか杉国体」総監督報告
辻 義人	「説明の心理学－説明社会への理論・実践的アプローチ」, ナカニシヤ出版	11 月	「第 1 5 章 産業場面での実践と評価」(書籍)
	「文書表現技術ガイドブック」, 共立出版	1 月	「第 3 章 読み手に合わせた表現とは」(書籍)
	CIEC 会誌「コンピュータ&エデュケーション」Vol. 22	6 月	インターネットを活用した「子ども科学教室」の試みと運営体制－IM によるテレビ会議型授業－(論文)
	CIEC 会誌「コンピュータ&エデュケーション」Vol. 23	12 月	インターネット「子ども科学教室」の実践事例－システム構成と運営体制の考察－(論文)
	CIEC 総会 PC カンファレンス 2 0 0 7	8 月	テレビ会議を利用した総合学習の活性化事例－SEM による身近な植物観察－(学会報告)
	日本教育工学会第23回全国大会	8 月	インターネットテレビ会議型授業の実践と運営評価(学会報告)
	日本教育心理学会第49回総会	9 月	コンピュータ操作技能の向上を促す説明活動のあり方－説明者による「問いかけ」の効果の検討－(学会報告)
	北海道文教大学 FD 講演会	11 月	GPA の問題点・授業評価の有効活用(講演)
	北海道剣淵高等学校(外部講演)	11 月	園芸療法の理論と実践(講演)
中川喜直 (つづく)	主催：日本加圧トレーニング学会 東京大学 本郷キャンパス 弥生講堂一条ホール	2. 17	筋の脂肪燃焼と加圧トレーニング(特別講演)

中川喜直 (つづき)	主催：(社)日本エアロビスフィットネス協会 NTT 北海道セミナーセンター	11. 28	高齢者の運動参加による利益と指導上の留意点 (講演)
	主催： NPO 法人自然教育促進会 札幌市生涯学習センター (ちえりあ)	11. 20	ストックウォーキングのススメ (講演)
	主催： NPO 法人生涯学習研究会北海道佐藤水産文化ホール (札幌)	10. 28	ストックウォーキングの効用 (講演)
	主催： 北海道スポーツ医科学研究会 北翔大学北方圏学術情報センター	10. 26	北海道における健康・スポーツ科学研究の展望 (講演)
	主催： (社)日本エアロビスフィットネス協会 NTT 北海道セミナーセンター	9. 17	運動の継続がもたらす身体機能の変化 (講演)
	主催：全道フットパス・ネットワーク準備会 南幌町ビューロ	6. 30	スポーツ医学からみたウォーキング (講演)
中村秀雄	『国際商事法務』35巻9号	9月	英国「書式戦争(Battle of Forms)」戦況ノート
	『国際商事法務』35巻10号-36巻3号	10月-3月	「国際取引契約書～修正のキーポイント」(連載)
	豊田グループ法務関係者向け講演	H19. 11	英文契約書作成・国際契約交渉のキーポイント
	国際商事法務研究所セミナー	6月10月2月	英文契約書作成のキーポイントセミナー
花輪啓一	平成 19 年度ポカリスエット・ジュニアスポーツセミナー (美幌町)	7. 1	スポーツ活動中の熱中症予防 (講演)
	人間・生活環境系学会 屋外熱環境系デザイン研究会	9. 18	北海道における熱中症発生の実態 (招待講演)
	北海道薬科大学・小樽商科大学包括協定調印記念合同市民講座	10. 13	からだと心の健康づくりへの第一歩 (講演)
	平成 19 年度北海道スポーツ指導者ブロック研修会	10. 14	スポーツ好きをつくる指導者 (講演)
	平成 19 年度競技力向上指導者講習会 (札幌市)	11. 23	スポーツ活動における熱中症予防 (講演)

旗本智之	日本会計研究学会第 65 回全国大会	9. 1	課題研究委員会「わが国における原価計算の導 入と発展- 文献史的研究」（中間報告）
	小樽商科大学ビジネ ススクール編『MBA のための財務会計： 基礎から国際会計基 準まで』改訂版	4 月	分担章：第 4 章「会計情報の利用」、第 9 章「企 業評価と会計情報」。
	『小樽ジャーナル』	3. 11	「市立病院の負担に斜陽小樽は耐えられるか」 （寄稿）
	『会計』第 172 巻第 4 号	10 月	「高度経済成長期の投資の意思決定論」（論 文）
	『企業会計』第 59 巻 第 12 号	12 月	「シリーズ 会計教育の現代的課題 投稿 教育現場からの声 統合型ケース分析を通じ ての会計教育」（寄稿）

*CBC が各教員へ実施した調査に回答があった分のみ掲載

*ユーザーエクスペリエンス研究部門関連はⅣ－1.（p. 17）に記載

IV－5. 学外委員等

各種委員会・審議会

(氏名五十音順)

氏 名	主 催	名 称	役 職	期 間
秋山義昭	北海道科学技術総合振興センター		評議員	H19. 07. 01－ H21. 06. 30
	小樽市教育委員会	小樽市立学校の規模・配置の在り方検討委員会	委員	H18. 07. 01－ H19. 09. 30
	小樽開発建設部	小樽開発建設部総合評価審査委員会	委員	H19. 04. 01－ H20. 03. 31
	小樽開発建設部	小樽開発建設部入札監視委員会	委員	H19. 04. 01－ H20. 03. 31
	北海道	北海道科学技術審議会	委員	H17. 04. 01－ H19. 11. 26
	小樽市	小樽市総合計画審議会	委員	H19. 07. 31－
	小樽ふれあい観光大使運営協議会	小樽ふれあい観光大使		H19. 07. 01－
	国立大学協会	国際交流委員会	委員	H18. 04. 01－ H20. 03. 31
	小樽商工会議所		顧問	H14. 05. 08－ H22. 10. 31
	小樽観光大学校		顧問	H18. 05. 16－
	北海道・マサチューセッツ協会		理事	H14. 05. 14－ H20. 03. 31
	北海道ユネスコ連絡協議会		顧問	H17. 05. 20－ H20. 05. 31
	北海道生産性本部		顧問	H16. 04. 01－ H20. 05. 31
	北海道経済産業局	中小企業活性化・北海道戦略会議	委員	H19. 07. 06－ H21. 03. 31
	伊藤整文学賞の会		役員	H17. 09. 10－ H19. 09. 09
相内俊一	北海道	北海道労働審議会	委員	H19. 04. 09－ H21. 04. 08
	ニセコ町	情報公開審査会並びに個人情報保護審査会	委員	H17. 12. 01－ H20. 11. 30
	余市町	余市町政治倫理審査会	委員	H19. 4. 1－ H21. 3. 31
浅沼義英	小樽市	小樽市地域密着型サービス運営委員会	委員	H18. 05. 02－ H21. 03. 31
	全国大学保健管理協会		評議員	H19. 04. 01－ H21. 03. 31
穴沢 眞	北海道生産性本部		理事	H14. 07. 01－ H20. 05. 31
石黒匡人 (つづく)	北海道	北海道大規模小売店舗立地審議会	特別委員	H14. 06. 01－ H20. 05. 31
	北海道	北海道地方労働委員会	公益委員	H16. 11. 01－ H20. 11. 30

石黒匡人 (つづき)	小樽市	小樽市情報公開審査会	委員	H14. 06. 01- H20. 07. 11
	石狩市	市民参加制度調査審議会	委員	H15. 12. 15- H20. 02. 28
	北しりべし廃棄物 処理広域連合	北しりべし廃棄物処理広域連合情報 公開審査委員会	委員	H16. 09. 06- H22. 03. 31
	江別市	江別市自治基本条例（仮称）制定審査 委員会	委員	H19. 11. 01- H20. 09. 30
石崎香理	北海道	北海道国土利用計画審議会	委員	H20. 02. 01- H23. 01. 31
伊藤 一	小樽市中心市街地 活性化協議会	小樽市中心市街地活性化協議会	委員	H19. 02. 01- H21. 03. 31
江口 修	伊藤組100年記念基 金	伊藤組100年記念基金	評議員	H19. 05. 18- H21. 05. 17
	北海道	国際化推進委員会	委員	H19. 08. 15- H21. 03. 31
海老名 誠	北海道経済産業局	提案公募型技術開発事業外部審査委 員会	副委員長	H17. 06. 22- H21. 03. 31
	北海道	北海道労働審議会	特別委員	H17. 06. 17- H21. 08. 01
	北海道科学技術総 合振興センター		企画委員	H18. 06. 21- H21. 06. 30
	北海道科学技術総 合振興センター	研究開発助成事業審査委員会	審査委員	H17. 06. 01- H20. 03. 31
	東京商工会議所	国際経済委員会	委員	H20. 02. - H22. 09. 30
	北海道経済産業局	北海道MOTコンソーシアム（推進協 議会）	委員	H19. 11. 20- H20. 03. 31
	さっぽろ産業振興 財団	さっぽろ起業家総合支援協議会	会長	H18. 04. 20- H20. 03. 31
	小樽商工会議所	J A P A Nブランド育成支援事業プ ロジェクト実行委員会	副委員長	H17. 07. 08- H20. 02. 29
	小樽観光大学校	運営委員会	委員	H18. 05. 16-
	北海道	都市エリア産学官連携促進事業選定 委員会	選定委員	H19. 12. 10- H19. 12. 26
	苫小牧工業高等専 門学校	現代的教育ニーズ取組支援プログラ ム（現代G P）評価検討委員会	委員長	H19. 04. 01- H20. 03. 31
大島 稔	アイヌ文化振興・研 究推進機構	助成事業審査委員会	委員	H16. 07. 01- H20. 03. 31
	アイヌ文化振興・研 究推進機構		理事	H19. 04. 01- H21. 03. 31
	アイヌ文化振興・研 究推進機構	事業検討委員会	委員	H16. 06. 23- H19. 05. 31
大矢繁夫	北海道	北海道建設業審議会	委員	H15. 12. 17- H22. 01. 20
	小樽市	小樽市特別職報酬等審議会	委員	H14. 08. 15- H20. 09. 09

岡部善平	北海道教育委員会	北海道高大連携フォーラム運営委員会	委員	H19. 06. 01- H20. 03. 31
	北海道大学	北海道大学高等教育機能開発総合センター	研究員	H18. 09. 01- H20. 03. 31
荻野富士夫	小樽市教育委員会	市立小樽文学館審議会	委員	H19. 11. 01- H21. 10. 31
	小樽市教育委員会	小樽市文化財審議会	委員	H15. 11. 01- H21. 10. 31
	小樽市教育委員会	小樽市博物館協議会	委員	H16. 08. 02- H20. 08. 01
小田福男	北海道労働局	北海道地方最低賃金審議会	委員	H17. 05. 01- H20. 04. 30
	北海道大学	スラブ研究センター	共同研究員	H19. 04. 01- H21. 03. 31
片岡正光	小樽市	小樽市公害対策審議会	委員	H16. 02. 22- H22. 03. 06
片桐由喜	北海道	北海道消費生活審議会	委員	H17. 09. 01- H21. 09. 29
	中央労働委員会		地方調整委員	H16. 08. 01- H20. 09. 30
	小樽市	小樽市有償運送運営協議会	委員	H18. 07. 31- H21. 03. 31
	小樽市	小樽市男女平等参画推進市民会議	委員	H15. 08. 01- H21. 08. 31
	北海道社会保険	北海道地方社会保険医療協議会	委員	H17. 01. 21- H21. 02. 21
	小樽市	小樽市感染症の診査に関する協議会	委員	H19. 04. 01- H21. 03. 31
	北海道社会保険	政府管掌健康保険の健康保険事業に関する懇談会	懇談会委員	H19. 06. 01- H20. 09. 30
	北海道社会保険	市場化テスト事業評価委員会	委員	H19. 08. 31- H20. 03. 31
	小樽市	小樽市真栄保育所移譲先法人選定委員会	委員	H19. 09. 19-
君羅久則	北海道教育委員会	北海道・札幌市公立学校教員採用に関する協議会	委員	H16. 04. 01- H20. 03. 31
近藤公彦	帯広畜産大学	十勝アグリバイオ産業創出のための人材育成人材事務局	構成員	H19. 09. 11- H20. 03. 31
	北海道経済産業局	北海道地域産業資源活用事業評価委員会	委員	H19. 10. 03- H20. 03. 31
	北海道経済産業局	北海道経済産業局地域資源活用新事業展開支援事業費補助金評価委員会	委員	H19. 11. 02- H20. 03. 31
齋藤一朗	北海道	北海道商工業振興審議会	委員	H15. 07. 10- H21. 10. 10
	北海道未来総合研究所		客員研究員	H14. 04. 01- H20. 03. 31
	北海道財務局		金融行政アドバイザー	H19. 07. 01- H21. 03. 31
	旭川市	旭川市立高台小学校 P F I 整備事業者選定審査委員会	審査委員	H19. 08. 22- H21. 03. 31

才原慶道	北海道大学	北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター	研究員	H19.06.04- H20.03.31
佐藤 剛	北海道大学	北海道大学情報基盤センター	プログラム指導員	H18.04.01- H20.03.31
下川哲央	札幌市	北海道札幌新定時制高等学校及び中央幼稚園整備等事業者選定委員会	委員	H18.05.01- H19.07.31
	北海道科学技術総合振興センター		企画委員	H15.07.01- H19.06.30
	北海道運輸交通研究センター		理事	H16.08.01- H20.07.31
	北海道科学技術総合振興センター	札幌ITフロント	代表理事	H19.04.01- H20.03.31
	北海道私立幼稚園協会	退職金基金運用協議会	委員	H14.07.15- H20.03.31
瀬戸 篤	ヒューマン・キャピタル・マネジメント	HCM産学官イノベーション研究会	講師	H19.04.26- H21.04.25
	北海道旅客鉄道		アドバイザー	H19.11.01- H20.10.31
	北海道東海大学		客員教授	H19.04.02- H20.03.31
	北海道開発局	北の住まいとまちづくり委員会	委員	H19.02.19- H20.03.31
	新エネルギー・産業技術総合開発機構		NEDO技術委員	H18.05.01- H20.03.31
	情報・システム研究機構	利益相反委員会	委員	H18.04.01- H20.03.31
	読書会		アカデミックアドバイザー	H18.11.16- H20.11.15
	帯広畜産大学	十勝アグリバイオ産業創出のための人材育成事業化推進タスクフォース	構成員	H19.09.11- H20.03.31
	アグリバイオインダストリ		最高経営アドバイザー	H18.04.07- H20.03.31
	東京読書会		アカデミックアドバイザー	H20.01.09- H22.01.08
多木誠一郎	余市町	情報公開審査会／個人情報保護審査会	委員	H16.04.01- H19.06.30
	日本共済協会	共済理論研究会	委員	H19.04.01- H21.03.31
	J A総合研究所	将来構想・制度研究会	委員	H19.05.01- H21.03.31
田野有一 (つづく)	東日本トランポリン協会		常任理事	H19.04.01- H21.03.31
	北海道トランポリン協会		副会長	H19.04.01- H21.03.31
	道央トランポリン協会		副会長	H19.04.01- H21.03.31
	日本学生トランポリン競技連盟		副会長	H19.04.01- H20.03.31

田野有一 (つづき)	日本トランポリン協会		理事	H19. 04. 01- H21. 03. 31
	北海道学生体操連盟		副会長	H19. 04. 01- H20. 03. 31
	小樽体操連盟		理事長	H19. 04. 01- H21. 03. 31
	北海道体操連盟		常務理事	H19. 04. 01- H21. 03. 31
	日本体操協会		北海道ブロック代表	H19. 04. 01- H21. 03. 31
	北海道体育協会	競技力向上委員会	委員	H19. 06. 22- H21. 06. 21
中村隆志	恵佑会札幌病院	治験審査委員会	委員	H14. 07. 12- H20. 07. 11
中村秀雄	北海道運輸局	北海道船員地方労働委員会	公益委員	H16. 09. 06- H21. 08. 09
	札幌医科大学		アドバイザー	H18. 12. 08- H19. 12. 07
	北海道経済国際化推進会議		貿易コンサルタント	H16. 05. 01- H20. 03. 31
旗本智之	一橋大学	一橋大学大学院商学研究科日本企業研究センター	フェロー	H19. 04. 26- H20. 03. 31
花輪啓一	小樽市	小樽市地域密着型サービス運営委員会	委員	H19. 10. 03- H21. 03. 31
平沢尚毅	ユーザデザインラボ		技術指導	H19. 09. 14- H20. 03. 31
	北海道科学技術総合振興センター	札幌ITフロント	理事	H19. 04. 01- H20. 03. 31
	東京エレクトロンソフトウェア・テクノロジーズ		技術指導	H19. 06. 15- H20. 03. 31
	富士フイルム		技術指導	H19. 05. 17- H19. 11. 16
	コネクトテクノロジーズ		技術指導	H20. 02. 10- H21. 03. 31
船津秀樹	日本港湾協会	苫小牧港港湾整備構想検討委員会	委員	H16. 09. 01- H19. 11. 30
寶福則子	小樽市	小樽市青少年問題協議会	委員	H17. 11. 01- H21. 10. 31
前田東岐	北海道	国土利用計画審議会	委員	H17. 02. 01- H20. 01. 31
	北海道	北海道政策評価委員会	委員	H16. 05. 17- H20. 05. 21
	北海道	北海道地価調査委員会	委員	H19. 10. 01- H21. 09. 30
松尾 睦	B-サポート		経営アドバイザー	H19. 04. 05- H20. 03. 31
	北海道二十一世紀総合研究所	北海道ソリューション・サービス産業研究会	委員長	H19. 10. 09- H20. 03. 31
	札幌医科大学	札幌医科大学附属病院患者サービス向上委員会	委員	H19. 10. 25- H21. 03. 31

本久洋一	北海道		特別労働相談員	H16. 04. 01- H20. 03. 31
	北海道	北海道地方労働委員会	公益委員	H16. 11. 01- H20. 11. 30
八木宏樹	後志支庁	石狩・後志地区漁港管理委員会	委員	H17. 03. 01- H20. 03. 31
山本賢司	寒地港湾技術研究センター	地域活性化に資する港湾連携検討会	委員	H19. 12. 10- H20. 03. 14
山本眞樹夫	北海道教育大学	国立大学法人北海道教育大学外部評価	委員	H19. 06. 01- H19. 09. 30
山本 充	北海道	泊発電所環境保全監視協議会	委員	H18. 06. 16- H20. 06. 15
	北海道	北海道ゼロ・エミ大賞選考委員会	委員	H17. 12. 01- H19. 11. 30
	小樽市	小樽市都市計画審議会	委員	H16. 04. 01- H20. 03. 31
	北海道	石狩・後志地区海面利用協議会	委員	H20. 02. 20- H22. 03. 31
李 濟民	北海道	北海道総合開発委員会	臨時委員	H18. 04. 07-
	小樽市	小樽市地方港湾審議会	委員	H17. 08. 01- H21. 07. 31
和田健夫	北海道	北海道地方独立行政法人評価委員会	委員	H18. 08. 11 H20. 08. 10
	日本学生支援機構	全国学生指導研究集会協力者会議	委員	H19. 06. 27 H20. 08. 31
渡辺和夫	小樽市	上下水道事業経営懇話会	委員	H16. 04. 01- H20. 03. 31

V. 小樽商科大学 学術研究奨励事業第2回「学生論文賞」

総 評

学生論文賞実施委員会
委員長 近藤公彦

「学生論文賞」として2回目となる今年度は、学部生部門に39編，大学院生部門に5編，計44編の応募がありました。この応募数は昨年度よりも多く，また一昨年度までの学生懸賞論文の近年の推移の倍程度となり，学生の皆さんの研究成果の発表・評価先として，本論文賞の認知度と役割が大きくなってきたことを示しています。学部生部門での応募者は専門ゼミで学ぶ3・4年生がほとんどで，ゼミを中心とした応募となっています。所属では社会情報学科と商学科が多くを占めていますが，経済学科，企業法学科，言語センターからの応募もあり，研究テーマとしても多岐に渡っています。今年度は特に，社会情報学科のゼミによる応募が多く見られ，全体の応募数を引き上げました。

プレゼンテーションによる1次審査と論文審査による2次審査の厳正な2段階審査の結果，大学院生部門では優秀賞1編，奨励賞2編が入賞し，学部学生部門では，大賞となるヘルメス賞2編，優秀賞2編，奨励賞11編，および特別賞1編とベスト・プレゼン賞1編となりました。このうち，大学院生部門で1次審査を通過した3編は優秀賞1編，奨励賞2編とすべて入賞し，その質の高さを示しています。また特別賞は今年度から設けられた賞で，実施委員会において特徴的な評価を得た論文に対して与えられるもので，今年度は1編が該当しました。

上位入賞者の論文は，特に2次審査において査読担当者から高い評価を得ている傾向があります。「論文の形式・アプローチ・方法論」，「論理構成」，「テーマ設定」，「オリジナリティ」の点で，奨励賞の論文に比べて全体として万遍なく高い評価が与えられています。奨励賞受賞論文は，これらの点でいくつか低い評価が下されていることが指摘されます。特に，先行研究のレビュー不足や論文全体の論理構成の弱さが評価を下げる要素となっています。高いレベルの論文を目指す学生の皆さんには，応募に当たり，論文執筆の基本的な作法のほか，テーマのユニークさを「独りよがり」ではなく客観化・相対化するための学術的な裏づけを十分に意識することを心掛けてください。

本論文賞では，2段階審査にいずれにおいても応募者への評価のフィードバックが行われています。これは論文執筆のノウハウや研究能力のレベルの向上につながるものですので，ぜひ今後に役立てていただきたいと思います。

最後になりましたが，本論文賞の実施に当たりまして，株式会社北洋銀行様より多大なご支援を頂戴いたしました。記して感謝の意を表します。

小樽商科大学 学術研究奨励事業第2回「学生論文賞」結果

○学部学生の部

結果	タイトル	応募者
ヘルメス賞	VaRの実践と計算方法の比較	菅野 有記 中島 啓
	北海道における暖房エネルギー源の木質バイオマス転換可能性に関する研究	草野 雄太 村松 徹 杉山 美幸 鈴木 啓 黒川 紗良 洪 明堤
優秀賞	ラッキーピエロの成功に見るハンバーガーチェーンビジネス論理の変化	小林 沙織
	観光地における洋菓子土産ブランドの成長とあり方ールタオを事例として	東出 幸一郎 伊藤 理代 尾池 舞夢 上村 真弓
特別賞	投票用紙記載台に掲示される候補者名簿が投票行動に与える影響の考察	渡部 謙太郎
奨励賞	ドラッグストア業界にみる店舗多様化の考察～サッポロドラッグストアを事例に～	近藤 雅之 坂口 真美 佐藤 綾香 田川 和広
	コミュニティ型小売業とは－丸井今井小樽店とサンモール一番街の事例をもとに	上田 真友子
	CDの売上げ減少からみる音楽業界の変化	佐々木 希 槌屋 茉季子 福澤 茉璃子
	我が国の『構造改革』におけるPPPの重要性について	工藤 浩平
	道内質屋業界における営業活動の基盤について－個人（零細）質屋に関する考察	成 珍模 小笠原 静香 吉崎 孝佑
	札幌圏におけるフリーペーパーの地位の確立	佐々木 貞文 上野 晴香 工藤 布由子 高橋 智美
	中華人民共和国・中華民国、統一と独立の論争－2つの主権国家の政策変化を追って	渡邊 有美
	地域の小規模家具小売店の問題～小樽市の小規模家具小売店を例に～	児玉 結
	チルドカップ市場の参入戦略－後発者の視点から	鳥谷部 未来 新保 綾 山内 里恵
	二項モデルによる鶏卵先物オプション価格の導出	竹本 健一 □□ □□
	紀伊長島町水道水源保護条例を例にみる条例制定権の限界	三上 紘子 大和田 康子 西川 美由紀 林 由季子

○大学院学生の部

結果	タイトル	応募者
優秀賞	デュレーションを用いたヘッジポートフォリオのVaR	久保 順也
奨励賞	独占禁止法25条の存在意義について	松岡 清華
	An Investigation into Avoidance Behavior in English Writing by Japanese learners	和田 眞里

○ベスト・プレゼン賞

結果	タイトル	応募者
ベスト・プレゼン賞	おたる水族館の課題と新事業提案～水族館が変われば小樽が変わる!!～	関野 亜実 白鳥 里美 田嶋 遥介 千葉 いつみ

副賞 ヘルメス賞 10万円 優秀賞 5万円 奨励賞 1万円 特別賞 1万円
 ベスト・プレゼン賞 図書カード1万円分

各論文講評（優秀賞以上および特別賞）

ヘルメス賞

菅野 有記 中島 啓 「VaRの実践と計算方法の比較」

VaR (Value at Risk) とは「ある一定確率で起こりうる将来の損失額の最大値」と定義され、リスク管理の中心的な役割を担っている。特に、金融機関はBIS規制のもと、VaRに基づき資本金等の調整を課せられている。一方、BISは、一定の条件を満たした場合、各金融機関が独自にVaRを計算することを認めている。このため、各金融機関はVaR値を低く計算する独自モデルを構築するインセンティブがある。

以上のことを踏まえ、本論文の主旨は、BISが提示する標準方法を「モンテカルロ法」と「ヒストリカル法」という、2種類の方法と比較することである。計算の結果、取り上げたいくつかの金融資産においては、後者の方法によるVaR値が現実の値に近いこと、また、VaR値自身が低くなることが示されている。

この論文は、構成が分かりやすく、目的がきわめて明確である。また、筆者は計算可能な課題がうまく設定し、かつ、その計算を通して技術的なスキルも習得していることが読み取れる。学部生として理解できる範囲において、VaRの背景をよく研究しており、その知識を研究課題にうまく結び付けている点が非常に優れており、ヘルメス賞に値するものと感じられた。

ヘルメス賞

草野 雄太 村松 徹 杉山 美幸 鈴木 啓 黒川 紗良 洪 明堤

「北海道における暖房エネルギー源の木質バイオマス転換可能性に関する研究」

昨今の原油価格の高騰と二酸化炭素排出等による地球の温暖化を背景に、我が国に多く存在する森林資源のエネルギーとしての活用について検討した研究で、現在の社会情勢を背景にした大変意義深い論文である。学生達は北海道の人工林としての針葉樹林に着目し、これら木質バイオマスが地球大気中の二酸化炭素濃度を増加させない再生可能なエネルギーとして、特に森林資源に恵まれた北海道においてどの程度活用可能かを研究している。木質ペレットの燃焼エネルギーを灯油に換算し、北海道の人工針葉樹林を40年サイクルで伐採しペレット化して冬季暖房に利用すると仮定すると、彼らの計算ではおよそ30%の暖房エネルギーを木質ペレットで賄える。この計算を各支庁に適用すると、林業が盛んでそれほど人口の多くない、檜山、日高、網走支庁では冬季暖房灯油量のすべてを木質ペレットで代替できる計算となる。再生可能なエネルギーについて論じた優れた論文であるが、配管を通してストーブに供給される便利な灯油に馴れてしまった住民が、過去の石炭利用のように手間のかかる木質ペレット燃料に転換してくれるのかという、現実的な考察とその解決策への提案が無いのが残念である。

優秀賞

小林 沙織 「ラッキーピエロの成功に見るハンバーガーチェーンビジネス論理の変化」

北海道函館市には、地方限定のハンバーガーチェーンとして有名な「ラッキーピエロ」があり、この論文は、その「ラッキーピエロ」の成功要因について検証した論文である。ラッキーピエロは、他のハンバーガーチェーンと特徴が異なり、一見、成功要因とは呼べない非効率な部分も存在する。そこで、著者の小林さんは、「ラッキーピエロ」が成功した要因を明らかにするために、4つの仮説を立て検証している。調査は、アンケート調査およびヒアリング調査を通して行い、信頼性の高い調査となっている。また、マクドナルドとモスバーガーを例に挙げ、価格、立地、食材、商品提供方法、ターゲット層などの観点から比較し、従来のチェーン店との差が理解しやすい構成である。これらの調査結果から、成功要因は、一定の地域に集中して店舗を出店するドミナント出店と呼ばれる方法を取り、「食を楽しめる空間作り」に成功したためと結論づけている。全体的に読みやすく、調査も緻密で、良い論文である。

優秀賞

東出 幸一郎 伊藤 理代 尾池 舞夢 上村 真弓

「観光地における洋菓子土産ブランドの成長とあり方ルタオを事例として」

我が国では、地方の資源を活用して地方を活性化しようとの試みが盛んである。小樽は、人口減少、高齢化など多くの地方都市に共通する課題を抱えている。そんな中、観光が小樽市の経済を支える重要な産業となっている。

小樽市の観光資源として有名なものは、「小樽運河」「レトロな街並み」「寿司」「おたるガラス」などがある。北海道には「白い恋人」など全国に著名な「菓子」がある。そんな中、本州資本で小樽に進出した「ルタオ」と言う洋菓子業が急成長している。

本論文は、観光地「小樽」から全国ブランドとして成長している「ルタオ」を採り上げ、本州資本の個別企業が成功してきた要因を、競合他社との比較、類似他都市の事例との比較で明らかにしており、客観的な分析から導き出された結論には納得性がある。

学部生の研究として、ここまで論理性・実証性において優れた事例は少ない。文章表現にも長けており、ライターとしての能力も高いと認められる。

優秀賞

久保 順也 「デュレーションを用いたヘッジポートフォリオの VaR」

債券投資における金利リスクを表す指標としてデュレーションがある。これは「複利総合利回りが一単位変化した時にどれだけ債券価格が変動するか」を表している。金利が残存期間に無関係に一定量変動した場合はこの手法によって示された価格変動値はかなりの精度を持つことが定義より明白である。この考え方を利用して、債権ポートフォリオの金利リスクをコントロールするために、債券先物の売買を通じてデュレーションを管理する方法がよくとられる。一方、現実には金利変動は複雑である。そのため、上記のような金利リスクの管理手法には問題があるのは容易に理解できる。

以上のことを踏まえ、本論文の主旨は、債券ポートフォリオの金利リスクを債券先物のデュレーションを通じで行った時のエラーをモンテカルロ法に基づく VaR によって数値化して示すことである。計算の結果、債券ポートフォリオの構成銘柄が債券先物に用いられている銘柄の特性から乖離すればするほど、債券先物のデュレーションを用いた金利リスクのコントロールがうまくいかないことが示されている。

デュレーションは現実の債券運用に用いられており、その問題点はよく知られている。この論文はそのことを再考したものである。デュレーションと VaR を組み合わせて問題点を数値的に見やすくしており、その技術的な点が優秀賞に値するものと感じられた。

特別賞

渡部謙太郎 「投票用紙記載台に提示される候補者名簿が投票行動に与える影響の考察」

本研究は、選挙の際に候補者が本名とは別に通称として平仮名等の表記を用いることが認められていることに注目し、候補者氏名の表記方法と選挙人の投票行動の関係について実証的に明らかにしようと試みた斬新な研究です。特に若年層の政治への関心の低下が指摘されて久しい（ごく最近は局地的に関心が高まっているらしいが）わけですが、選挙人が意識しているか否か、またこのこと自体が好ましいかどうかは別として、たしかに候補者氏名の“字面”が投票行動に影響している可能性は否定できないわけで、この、ある意味ではタブーに近い仮説を実験に基づいて確かめようとした点が本研究の最大の“売り”と言って良いでしょう。実は本論文の審査にあたった2名の教員の評価は、研究のアプローチをどのように評価したかによって大きく異なっていて、結果的に総合得点は入賞ラインに届きませんでした。両審査員が「研究の独創性」の項目で高評価を与えていること、さらに一次審査のプレゼンテーションの評価が高いことなどを総合的に判断して、学生論文賞実施委員会が特別賞に値すると判断したものです。

審査担当教員

相内俊一*, 穴沢 眞*, 阿部孝太郎*, 石井利昌, 石黒匡人*, 石崎 香理, 一原亜貴子, 伊藤 一*, 今本啓介, 江頭 進*, 海老名誠*, 大島 稔*, 大津 晶*, 大矢繁夫*, 荻野富士夫*, 小田福男*, 乙政佐吉*, 片岡正光*, 木村泰知*, 小林敏彦*, 近藤公彦*, 齋藤一朗*, 坂柳 明*, 佐山公一*, 渋谷 浩*, 下川哲央*, 杉山 成*, 鈴木将史, 高井 収, 高田 聡*, 高野寿子*, 多木誠一郎*, 田中幹大*, ダニエラ・カルヤヌ, 玉井健一*, 辻 義人*, 出川 淳*, 遠山淳弘, 中浜 隆, 中村秀雄*, 沼澤政信*, 簗本智之*, 藤生源子*, 船津秀樹*, プラート・カロラス*, 裴 崢, 白 貞壬*, 宝福則子*, 前田東岐*, 松尾 睦*, 松家 仁*, 道野真弘*, 横村栄美*, 李 濟民*, 若井克俊*, 和田健夫, 和田良介（以上57名 *は2次審査も担当）

第1次審査（11月21日）



表彰式 学長を囲んで（3月18日）



Ⅶ. 活 動 日 誌

4月10日（火）	第1回主任会議
4月10日（火）	小樽観光大学校運営委員会（小樽商工会議所） 出席：海老名
4月10日（火）	東アジアマーケットリサーチ事業委員会（小樽市役所別館） 出席：海老名
4月22日（日）-25日（水）	東アジアマーケットリサーチ事業香港出張：海老名
4月27日（金）	第1回運営会議 審議：1) C B C フェローの委嘱について 2) 平成19年度予算執行計画（案）について 報告：3件
5月 8日（火）	第2回主任会議
5月 8日（火）	第2回運営会議（持ち回り） 審議：平成18年度予算執行実績調書（第5次）の提出について
5月 9日（水）	J A P A Nブランド育成支援事業プロジェクト委員会（小樽商工会議所） 出席：海老名
5月10日（木）	小樽観光大学校運営委員会（小樽商工会議所） 出席：海老名
5月27日（日）	第3回ビズ・サイエンスカフェおたる「お酒のカガク」開催協力（田中酒造亀甲蔵） 司会：大津
5月30日（水）	第3回運営会議 審議：北洋銀行ものづくりテクノフェアへの出展について 報告：2件
6月 5日（水）	小樽観光大学校運営委員会（小樽商工会議所） 出席：海老名
6月 7日（木）	第3回主任会議
6月 7日（木）	第4回運営会議（持ち回り） 審議：小樽商科大学学生論文賞実施要領について
6月12日（火）	北洋銀行ものづくりテクノフェア2007出展（札幌コンベンションセンター）
6月18日（月）	J A P A Nブランド育成支援事業プロジェクト委員会（小樽商工会議所） 出席：海老名
6月26日（火）	第5回運営会議（持ち回り） 報告：4件
6月28日（木）	第1回学生論文賞実施委員会
7月 2日（月）	第4回主任会議
7月 5日（木）	J A P A Nブランド育成支援事業プロジェクト委員会（小樽商工会議所） 出席：海老名
7月11日（水）	小樽市老壮大学特別講座（日専連ビル） 講師：海老名
7月17日（火）	東アジア経済研究会／東アジア・マーケットリサーチ事業報告会（運河プラザ） 出席：海老名
7月31日（火）	小樽観光大学校運営委員会（小樽商工会議所） 出席：海老名
8月10日（金）	J A P A Nブランド育成支援事業プロジェクト・ワーキンググループ（小樽商工会議所） 出席：海老名
8月24日（金）	J A P A Nブランド育成支援事業プロジェクト・ワーキンググループ（小樽商工会議所） 出席：海老名
8月30日（金）	小樽観光大学校運営委員会（小樽商工会議所） 出席：海老名
9月 6日（木） - 7日（金）	第20回国立大学法人共同研究センター専任教官（教員）会議出席（金沢大学） 参加：海老名、一瀬
9月 8日（土）	マーケティングセミナー（主催：北海道経済産業局 共催：小樽商科大学他）（小樽商科大学札幌サテライト） 講師：近藤
9月10日（月）	第2回学生論文賞実施委員会

9月10日（月）	J A P A Nブランド育成支援事業プロジェクト・ワーキンググループ（小樽商工会議所） 出席：海老名
9月13日（木）-14日（金）	社会科学系3大学地域共同研究センター定期情報交換会（滋賀大学彦根キャンパス） 出席：海老名，大津，今野，酒井以上4名
9月20日（木）-21日（金）	国際シンポジウム出席 基調講演：近藤 モデレーター：海老名
9月28日（金）	小樽観光大学校運営委員会（小樽商工会議所） 出席：海老名
9月29日（土）	マーケティングセミナー（主催：北海道経済産業局 共催：小樽商科大学他）（小樽商科大学札幌サテライト） 講師：田中情報資料部主任
10月 9日（火）	第5回主任会議
10月18日（木）	第6回運営会議（持ち回り） 審議：小樽駅前ビルユーザビリティラボ規程の整備について
10月18日（木）-19日（金）	第19回国立大学共同研究センター長等会議（新潟グランドホテル） 参加：海老名，和田，持田以上3名
10月21日（日）-25日（木）	小樽市代表使節団ナホトカ市訪問 参加：海老名
10月26日（金）	小樽観光大学校運営委員会（小樽商工会議所） 出席：海老名
10月29日（月）	J A P A Nブランド育成支援事業プロジェクト委員会（小樽商工会議所） 出席：海老名
10月31日（水）	第7回運営会議 審議：1) 学外協力スタッフの採用について 2) 平成20年度客員研究員受け入れについて 報告：6件
11月 6日（火）	第6回主任会議
11月 7日（水）	小樽商科大学ユーザビリティ・ラボ開所式（小樽第一ビル 小樽商科大学ユーザビリティ・ラボ）
11月 7日（水）	第8回運営会議（持ち回り） 審議：平成19年度年度計画の進捗状況の中間報告について
11月11日（日）-14日（水）	J A P A Nブランド育成支援事業プロジェクト委員会香港出張 参加：海老名
11月19日（月）	J A P A Nブランド育成支援事業プロジェクト委員会（小樽商工会議所） 出席：海老名
11月21日（水）	学生論文賞第1次審査（プレゼン審査）
11月26日（月）	産学官連携サミット（ホテルオークラ東京） 出席：海老名、大津
11月27日（火）	小樽観光大学校運営委員会（小樽商工会議所） 出席：海老名
12月10日（月）	第7回主任会議
12月21日（金）	小樽観光大学校運営委員会（小樽商工会議所） 出席：海老名
12月25日（火）	第9回運営会議（持ち回り） 審議：1) C B Cセミナー，研究成果報告会の開催について 2) 平成20年度キャリア関連講義への協力について 報告：1件
1月10日（木）	第8回主任会議
1月10日（木）	第10回運営会議（持ち回り） 審議：平成19年度予算執行実績調書（第3次）の提出について
1月16日（水）-20日（日）	J A P A Nブランド「小樽ガラスの世界」展（香港そごう） 参加：海老名
1月31日（木）	第11回運営会議 審議：1) 次期ビジネス創造センター長の選出について 2) 平成19年度年度計画進捗状況報告（案）について 3) 平成20年度科目別経費予算要求（案）について 報告：3件
2月 6日（水）	第3回学生論文賞実施委員会
2月 7日（木）	第9回主任会議

2月 7日 (木)	学生論文賞審査結果発表
2月 8日 (金)	「OTARUガラスの精を探そう展」オープニングセレモニー (運河プラザ) 出席：海老名
2月12日 (火)	平成19年度全道産学官ネットワーク推進協議会 (京王プラザホテル札幌) セッションI 進行：海老名
2月14日 (金)	社会科学系3大学地域共同研究センター定期情報交換会 滋賀大学との打合せ会
2月26日 (火)	JICA研修講演 講師：海老名
2月26日 (火)	JAPANブランド育成支援事業プロジェクト委員会ワーキンググループ (小樽商工会議所) 出席：海老名
2月28日 (木)	JAPANブランド育成支援事業プロジェクト委員会 (小樽商工会議所) 出席：海老名
2月29日 (金)	第4回セミナー「ソフトウェア開発と人間中心設計」共催 (於：札幌サテライト 主催：特定非営利活動法人人間中心設計推進機構)
3月 3日 (月)	小樽観光大学校運営委員会 (小樽商工会議所) 出席：海老名
3月 5日 (水)	第10回主任会議
3月 6日 (木)	学生論文賞北洋銀行への結果報告
3月 7日 (金)	平成19年度 産学官連携研究成果報告会 (札幌サテライト)
3月 7日 (金)	平成19年度 学外協力スタッフ会議 (札幌サテライト)
3月10日 (月)	北のブランド審査委員会 出席：海老名 (於：札幌商工会議所)
3月14日 (金)	小樽観光大学校打合せ
3月15日 (土)	平成19年度小樽商科大学地域活性化セミナー「小樽の魅力」を売り込む工夫 (小樽運河プラザ三番庫)
3月18日 (火)	学生論文賞授賞式
3月18日 (火)	第12回運営会議 審議：1) ビジネス創造センター副センター長及び主任の選出について 報告：5件
3月19日 (水)	レクチャーディスカッション“Recapturing Talent: the Employer Perspective” (女性の職場復帰支援プログラム：マネジメントの視点から) 共催 (主催：在札幌米国総領事館) (札幌サテライト)
3月22日 (土)	おたる案内人ブラッシュアップ講座 講師：海老名
3月23日 (日)	第4回ビズ・サイエンスカフェおたる「小樽ガラス誕生の瞬間」開催協力 (利尻屋みのや不老館、ケーズブローイング) 司会：大津
3月27日 (木)	小樽市との包括連携協定調印式 (小樽市役所) 出席：海老名

＊事業名のあとの () 内は開催場所。記載がない場合は本学内。

海老名：センター長 大津：副センター長 和田：総務部主任 近藤：研究部主任
 田中：情報資料部主任 一瀬：文部科学省産学官連携コーディネーター
 酒井：研究協力係長 持田：研究協力係員 今野：助手

VII. ビジネス創造センター関連新聞・雑誌記事

平成 19 年度中に新聞・雑誌等に掲載された当センター、センター関係者、小樽商科大学の産学官連携に関連する記事の一覧です。

見出し末尾に＊のある記事は特に C B C 活動に関連のある記事とコピーを掲載しております。（＊コピーの掲載は冊子体のみで、W e b ではしていません。）

（日付順 特に記載がない限り、新聞は小樽市域販売のもの）

見 出 し []内は備考	紙名／誌名	巻号/日付(頁)
I T 活性化へ N P O を設立 ノーステック財団[代表：下川フェロー]	北海道新聞	4. 1 (10)
北海道 I T 企業経営者ら新組織、産学連携引き継ぐ。[代表：下川フェロー]	日経産業新聞	4. 2 (3)
産学連携の仕掛け役に（聞きたい言いたい）[インタビュー：下川フェロー]	日本経済新聞	4. 7 (35)
危機意識が景気を回復させる：産・学・官で「ストップ第 2 の夕張」（北海道メール）[寄稿：海老名センター長] ＊	週刊世界と日本	1755 号 /4. 16 (5)
2 校連携 環境や広域観光探る：樽商大 室工大	北海道新聞	5. 16 (室蘭地方)
[観光]を柱に地域再生講座：樽商大が室工大などと連携	北海道新聞	5. 17 (25)
「酒造りの神髄」学ぼう＊小樽で 27 日サイエンスカフェ [協力：ビジネス創造センター 司会：大津副センター長] ＊	北海道新聞	5. 24 (29)
洋菓子やコンブ商品百貨店、スーパーへ：台湾に販路開拓 地域一丸小樽[参加：海老名センター長]	北海道新聞	5. 27 (11)
酒造りの仕組み学ぶ：小樽で催し、80 人が交流[協力：ビジネス創造センター 司会：大津副センター長]＊	北海道新聞	5. 28 (31)
産学官金連携の動向と地方銀行の役割（特集活発化する産学官金連携）[寄稿：海老名センター長]	地銀協月報	No. 564/6 月号 (3-11)
小樽のガラス工芸品の魅力を発信：平成 19 年度 JAPAN ブランド育成支援事業に採択[参加：海老名センター長]＊	SeaPortWaltz	6 月号 (6)
「おたる案内人」検定試験 第 2 回は 9 月 16 日[運営委員：海老名センター長]	北海道新聞	7. 3 (24)
産学官連携で輸出に勝機：香港市場で小樽の食品需要調査 海老名誠・樽商大教授に聞く＊	北海道新聞	7. 4 (26)
未来型公共事業 少子高齢化する日本（国土交通・北海道開発行政への提言 1）[寄稿：瀬戸フェロー]	北海道建設新聞	7. 10 (1)

「道産品、アジアで商機」市老壮大学 海老名樽商大教授が講演	北海道新聞	7. 11 夕 (11)
東アジアで商機つかめ！：台湾の「道商談会」17 日、小樽、事業実行委[講演：海老名センター長]	北海道新聞	7. 12 (32)
帯広信金、地域経営塾開く、7 期生 33 人学ぶ	ニッキン	8. 17 (8)
あすまちづくりトーク[座談：海老名センター長]	北海道新聞	8. 22 夕 (9)
自治のあり方市長とトーク：札幌で座談会[座談：海老名センター長]	北海道新聞	8. 24 夕 (13)
小樽商大室蘭工大 全学レベルに連携拡充：あす協力協定を締結	読売新聞	9. 3 (32)
文系と理系が連携！小樽商大と室蘭工業大が協定締結！	小樽ジャーナル	9. 4
「大学力」アップへ連携：樽商大、室工大が調印式：共同研究事業化も	北海道新聞	9. 5 (29)
樽商大・室工大が協定：単位互換・共同研究・教員交流	朝日新聞	9. 5 (23)
全学的交流へ連携協定：小樽商大と室蘭工大が締結	毎日新聞	9. 5 (21)
教育、人材育成で連携：室工大と小樽商大調印	室蘭民報	9. 5 (1)
水素社会へ知恵探る：樽商大生：室工大と「フォーラム」	北海道新聞	9. 10 (35)
アントレプレナーシップが経済を変える・動かす（広告）[瀬戸フェロー]	日本経済新聞	9. 11 (13)
小樽商大・室蘭工大 地域再生システム論！一般も参加無料！	小樽ジャーナル	9. 12
「経済マイスターによる知力講座」日興ユニバーシティコンソーシアム（広告）[瀬戸フェロー]	日本経済新聞	9. 26 (10)
「文理融合」進む道内大学 連携協定や専門職大学院に本腰 [コメント：海老名センター長]	北海道新聞	10. 1 (13)
優秀な人材確保が課題[寄稿：瀬戸フェロー]	読売新聞	10. 8 (7)
市内 2 大学がタッグ！商大・薬大が包括連携協定	小樽ジャーナル	10. 11
「地域医療に貢献を」：樽商大と道薬科大が包括連携調印	北海道新聞	10. 12 (33)
小樽商大、道薬科大全学的に連携協定	毎日新聞	10. 12 (21)
包括連携の協定調印：樽商大・北海道薬科大：教員派遣や共同研究も	朝日新聞	10. 12 (2)
小樽商大と道薬科大連携：あすと 20 日、合同市民講座	読売新聞	10. 12 (30)
小樽で企業経営学ぶ：ロシアの若手経営者 20 人	北海道新聞	10. 23 (27)
進む国公立大連携：単科系、特性生かし生き残りかけ模索（新教育の森ほっかいどう）[コメント：一瀬コーディネーター]	毎日新聞	10. 26 (24)
中国野菜の輸入新聞記事で解説：小樽商大の中村教授講義[総務部スタッフ]	北海道新聞	10. 28 (32)

アントレプレナーシップが経済を変える・動かす（広告） [寄稿：瀬戸フェロー]	日本経済新聞	10. 31 (38)
「北海道に外貨導入政策」を：アジア経済発展の軌跡と 米国の考え方を参考に[寄稿：海老名センター長]	調査レポート（北 洋銀行）	No. 136/11 月号 (17-24)
小樽商大、ユーザビリティラボ開設！*	小樽ジャーナル	11. 7
小樽商大がラボ：IT 製品使いやすさ検証：JR 駅前企業、 自治体向け開放*	北海道新聞	11. 8(13)
頭取の統率力弱かった 斎藤一朗・小樽商大教授（私の拓 銀論：3）	朝日新聞	11. 26 (26)
みんなで書き込み HP で「小樽百科」：樽商大准教授が開 設	北海道新聞	11. 9(34)
製品の使いやすさをチェック：小樽商大が「ラボ」開設 *	読売新聞	11. 15 (27)
「地域に根ざした大学」を目指して：小樽商科大学の地 域連携活動[寄稿：海老名センター長]*	文部科学教育通信	No. 184/11. 26 (18- 19)
「おたる案内人」上には上：ご当地検定最高位新設：1 級対象、履修に講座と試験[運営委員・講師：海老名セン ター長]*	北海道新聞	12. 19 (25)
新聞記事から読む北海道経済の行方：2 月に講座[講師： 瀬戸フェロー]	北海道新聞	12. 23 (6)
小樽ガラス香港でもキラッと：商工会議所来月 16 日から 初展示会[参加：海老名センター長]*	北海道新聞	12. 28 (23)
地域活性化の技術開発議論：北大事例紹介 経産省が研 究会[コメント：土井学外協力スタッフ]	北海道新聞	1. 11 (11)
新聞記事から経済読む：来月 9 日小樽商大札幌教室で講 座[講師：瀬戸フェロー]	北海道新聞	1. 13 (6)
全国初の信金講座：地域振興、企業再生支援を指南：樽 商大、4 月開設 札幌信金が協力	北海道新聞	2. 1 (11)
呼び戻せ！夢と希望の新天地（北海道メール）[寄稿：海 老名センター長]*	週刊世界と日本	1791 号/2. 4 (3)
MOT 公開講座 4 大学にネット中継：来月、北海学園大で [講師：瀬戸フェロー]	北海道新聞	2. 6 (11)
進路考える機会提供：キャリア学習（新教育の森ほっか いどう）[大津副センター長]	毎日新聞	2. 8 (22)
商大の C B C 活動[寄稿：海老名センター長]*	緑丘	第 103 号 /2. 19 (2-4)
発展するアジア。協力を深めて北海道も豊かに：小樽商 大ビジネス創造センター長海老名誠さん（はなし抄）*	北海道新聞	2. 24 (30)

札幌信金、「信金」テーマに開講、小樽大に提供講義	ニッキン	2. 29 (9)
観光振興へ鋭い指摘も：JICA 留学生が発表[研修講師：海老名センター長]	北海道新聞	3. 1 (33)
小樽の魅力をどう売り込む：15 日商大が地域セミナー＊	北海道新聞	3. 4 (27)
小樽商科大学ビジネス創造センターの産学官連携研究成果報告会（講座・講演会）＊	読売新聞	3. 4 夕 (9)
北洋銀道内 5 大学と研究：新年度研究費用を負担	北海道新聞	3. 13 (11)
商大セミナー「“小樽の魅力”を売り込む工夫」＊	小樽ジャーナル	3. 15
地域振興の取り組み実例、体験談交え紹介：樽商大が活性化セミナー＊	北海道新聞	3. 16 (33)
北洋銀が 50 万円助成 新年度から：樽商大と室工大連携の講座	北海道新聞	3. 22 (10)
小樽ガラス工芸家が実演：あすサイエンス・カフェ[協力：ビジネス創造センター 司会：大津副センター長]＊	北海道新聞	3. 22 (32)
小樽ガラスの魅力を紹介ビズ・サイエンスカフェ[協力：ビジネス創造センター 司会：大津副センター長]＊	小樽ジャーナル	3. 23
小樽ガラス光る匠の技：「サイエンス・カフェ」で制作実演[協力：ビジネス創造センター 司会：大津副センター長]＊	北海道新聞	3. 24 (35)
ガラスの美堪能[協力：ビジネス創造センター 司会：大津副センター長]＊	読売新聞	3. 25 (33)
小樽 ガラスの誕生語る[協力：ビジネス創造センター 司会：大津副センター長]＊	朝日新聞	3. 25 (35)
地域経済の再生探る：学生の企業調査支援：北洋銀、樽商大と共同研究	北海道新聞	3. 25 (32)
小樽商大と市が包括連携協定＊	小樽ジャーナル	3. 27
小樽市職員商大に派遣：観光など連携協定＊	北海道新聞	3. 28 (36)
連携より密に＊	読売新聞	3. 29 (31)

平成19年度 ビジネス創造センター研究活動報告書

発行日 平成20年6月

国立大法人

編集・発行 小樽商科大学ビジネス創造センター研究部

〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号

Tel 0134-27-5290 Fax 0134-27-5293

URL <http://www.otaru-uc.ac.jp/cbc>

E-mail cbcjimu@office.otaru-uc.ac.jp